

平成29年度研究報告書

乳児院養育の可能性と課題を探る

—現代発達科学的視座からの検証—

研究代表者 遠藤 利彦 (東京大学大学院)
共同研究者 横川 哲 (麦の穂乳幼児ホームかがやき)
都留 和光 (二葉乳児院)
小山 悠里 (東京大学大学院 教育学研究科)
南山今日子 (子どもの虹情報研修センター)
協力 平田ルリ子 (清心乳児園)
全国乳児福祉協議会

社会福祉法人 横浜博萌会

子どもの虹情報研修センター

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

平成29年度研究報告書

乳児院養育の可能性と課題を探る

—現代発達科学的視座からの検証—

子どもの虹情報研修センター

目 次

序論

| | |
|--------------------|---|
| 乳児院養育の可能性と課題 | 1 |
|--------------------|---|

第 I 部 乳児院で使用されている情報収集・記録フォーマットの分析

| | |
|-------------------------------|----|
| 第 1 節 アセスメントの視点に関する実態調査 | 3 |
| 1-1. 目的 | 3 |
| 1-2. 方法 | 3 |
| 1-3. 結果と考察 | 4 |
| 1-4. まとめ | 6 |
| 附録 1 調査依頼書 | 8 |
| 附録 2 項目一覧 | 9 |
| 附録 3 結果図 | 13 |
| 第 2 節 各施設で使用されているシートの紹介 | 23 |
| 2-1. 全体 | 23 |
| 2-2. 入所早期 | 26 |
| 2-3. 入所中 | 29 |
| 2-4. 家族支援 | 36 |
| 2-5. 児童相談所との協働 | 39 |
| 2-6. 退所後 | 40 |

第 II 部 アセスメント票の開発にむけて

| | |
|---|----|
| 第 1 節 アセスメント票の開発の目的 | 41 |
| 1-1. 乳児院におけるアセスメントの重要性 | 41 |
| 1-2. 『乳児院におけるアセスメントガイド』と実態調査を踏まえて | 42 |
| 1-3. アセスメント票開発の目的 | 44 |
| 第 2 節 アセスメント票の概要 | 45 |
| 2-1. 心理社会的発達 | 46 |
| 2-2. アタッチメント | 46 |
| 2-3. 子どものSOSサインとトラウマ | 47 |

| | |
|----------|----|
| 総括 | 49 |
|----------|----|

序論

一乳児院養育の可能性と課題一

乳児院は元来、基本的に入所に関わる条件の制約がなく、様々な心身状態・環境条件にある子どもを広く受け入れていることから、入所児の多くが、入所時点で既に種々の重篤な発達リスクを抱えているという実状がある。また、入所時に顕在的な問題を示さない子どもでも、虐待やネグレクト等の不適切なあるいは劣悪な環境下で過ごしてきた、あるいはそれが疑われるケースが少なくない。現に、平成26年度のデータによれば、乳児院に新規入所した2,158名中、心身に全く医療的課題のない子どもは932名で43.2%に過ぎず、また、被虐待児の数も760名で全体の35.2%を占めている。こうしたことの半ば当然の帰結として、総じて、入所児の発達状態は入所段階から、定型的環境で成育している子どもと比して、低水準に止まると言わざるを得ない。

無論、大半の乳児院では、そうした多かれ少なかれ何らかの発達リスクを抱えた子どもに対して専門的なケアを施し、その心身発達の改善に努めてきている訳であるが、そうした実態とは裏腹に、社会全般に、乳児院で成育する子どもの発達上の問題を、不当にも、乳児院における環境条件の乏しさやケアの質の低さに起因すると誤って認識してしまう傾向があることは否めない。それは、とりもなおさず、多くの場合、子どもたちの退所時の発達状態のみをもって、乳児院の中における子どもの育ちの質が安易に判断されてしまうからに他ならない。本来、乳児院における子どもに対するケアの評価は、個々の子どもが入所時から退所時にかけていかに変化し得たかということに関する正確な理解をもってなされるべきであるが、退所時の子どもの状態が一般的な子どもの標準値に比して低いということだけから、乳児院養育の機能が過小評価されてしまっているという由々しき事態がある。

もっとも、これに関しては社会の側だけに責を求めることはできないだろう。むしろ、これまで、乳児院側が、入所時から退所時にかけての子どもの心身発達上の変化を的確な方法をもって定量的に把握し、それを可視化して社会に対して発信することを相対的に怠ってきたということを重く見るべきかもしれない。もちろん、これは、個々の乳児院レベルで、入所時の子どもの発達状態や子どもの家族状況等に関するアセスメントや情報収集が十分になされてこなかったということを意味するものではさらさらない。それどころから、個々の乳児院では、それぞれにアセスメントや情報収集に相応の工夫を重ねてきたものと見なすべきであろう。むしろ、主たる問題は、これまで日本の乳児院全体において、入所時から退所時に至るまでの入所児の成長発達および成育環境の質などを共通に捉え得るアセスメントの枠組みや標準的なツールがなかったことの中にあると考えられる。当然のことながら、それぞれの乳児院において、いかに詳細に亘って、子どもの成育環境や成長発達に関して評価し記録を残してきているとしても、それらが内容面でまた形式面等で個々ばらばらであれば、それらを整合的に集約することはきわめて困難となる。結果、日本の乳児院全体において、子どもたちが入所時から退所時にかけて、どれだけの成長発達を果たし、またそこに乳児院での種々のケアがいかに寄与し得ているかということも明示し得ないことになる。

こうした状況認識の下、本研究では、日本の乳児院において、現に、子どもたちの心身発達や成育状況等に関わるアセスメントが、子どもたちの乳児院での生活時間の進行とともに、いかに行われているかに関して実態調査を試みることにした。具体的には、全国137の乳児院に対して、子どもの入所受付から入所中、そして退所するまでの間において、子どもについての情報収集や記録のために使用される書類・調査票・記録票・シートのフォーマットなどを可能な限りすべて送付してもらうように依頼し、返送されたそれら資料に基づいて、どのような情報収集がいかなる形式で、またどの時点でなされているかなどに関して、概観・整理を行った。また、その結果に基づきながら、さらに全国乳児福祉協議会による『乳児院におけるアセスメントガイド』（2013）や発達臨床心理学の諸理論等にも依拠しつつ、将来的に広く日本の乳児院全体で用いられ得る標準的アセスメント票の試案を作成することとした。今年度は、殊に、どのような内容項目に関して、いかなる方法や評価ツール等を用いて、情報収集を行うべきかについて、第一次案を提示することを目的とした。

将来的に、全国の乳児院で共通に用いられる標準的なアセスメントの枠組みやそのための具体的なツールが開発され活用されることになれば、子どもたちの入所時から退所時までの成長発達の軌跡や変化を、定量的に示すことが可能となり、乳児院における養育の機能を正当に社会に対して提示することが可能となろう。また、そうした子どもの成長発達指標と乳児院における様々なケアの試みとの関連性を精緻に分析する中で、乳児院における養育上の課題を審らかにするとともに、いかなる乳児院養育の形が子どもの発達を支え促すことになるのか、その可能性を探ることにも通じよう。さらに、標準的なアセスメントの枠組みを子どもに関わる全職員が共有することになれば、乳児院内での子どもに対する関わりが、ぶれなく一貫したものになり、より大きな養育上の効果が期待されるものと言える。加えて言えば、子どもの心身の発達の特徴やその変化に関わる精確な情報は、子どもがその後、現家族のもとに戻るにせよ、別の施設に移行するにせよ、あるいは里親や養親のもとに身を寄せることになるにせよ、乳児院の中で子どもに対する種々のケアの試みを、子どものその後の長期に亘る成長発達に有機的につなげていくという意味においても、きわめて重要な役割を果たし得るものと言えよう。

引用文献

全国乳児福祉協議会 アセスメントツール作業委員会（編）（2013）. 乳児院におけるアセスメントガイド -社会的養護における人生初期のアセスメント- -子どもの養育の質を高めるために-

（文責 遠藤利彦）

第 I 部 乳児院で使用されている情報収集・記録フォーマットの分析

第 1 節 アセスメントの視点に関する実態調査

1-1. 目的

乳児院に入所する子どもやその家族が抱える課題は年々多様化、かつ深刻になっており、一人一人の子どもを細やかにかつ総合的にアセスメントし、養育していく専門性が乳児院にますます求められている。乳児院における子どもや家族のアセスメントの重要性については、『乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書』（全国乳児福祉協議会、2012）でも言われ、その後アセスメント力向上を目的とした『乳児院におけるアセスメントガイド』（2013）が全国乳児福祉協議会より発行されている。また、『新しい社会的養育ビジョン』（新たな社会的養育の在り方に関する検討会、2017）でも、乳児院の多機能化がうたわれ、アセスメントと専門性の高い個別化されたケアの必要性も指摘されている。しかし、受け入れている子どもの状況や地域特性など、各乳児院によって事情は異なり、実際の情報収集やアセスメントは各乳児院での取り組みに任されており、その内容や方法は全国的に統一されているとは言い難い。そこで、子どもが入所（一時保護含む）して退所するまでの間、子どもの心身の発達や課題、生育歴、また家族の状況などについて、どのように把握・記録しているか分析するために、全国の各乳児院で現在使用されている書類（フォーマット）・調査票・アセスメントシート等を収集する。収集された資料を主に発達臨床心理学の視座から整理・分析し、子どもの心身発達や子どもの家庭状況等について、どのような側面についてより多く着目しているか、あるいは逆にあまり着目していないか等、情報収集とアセスメントの現状を把握する。

1-2. 方法

1) 対象

全国の乳児院137ヶ所（平成29年6月1日時点）に郵送で調査票を送付したところ、116ヶ所より回答を得た（回収率84.7%）。

2) 調査内容

子どもの入所受付から入所中、そして退所するまでの間において、子どもについての情報収集や記録、アセスメントのために使用される書類・調査票・記録票・シートのフォーマット（様式）を可能な限りすべて送付してもらうように依頼した。調査依頼書を附録1に示す。

3) 分析方法

①項目の作成

『乳児院におけるアセスメントガイド』（全国乳児福祉協議会、2013）に掲載されているシートや、8ヶ所の乳児院で使用されている記録フォーマットやアセスメントシートをもとに「子どもの状態像」、「生育歴」、「家族の状況」を中心に項目を作成した。項目一覧を附録2に示す。

②評定

各乳児院から届いたフォーマット類について、まず「入所前後」「入所中」「退所前後」のどの時期に使われているものかタイトルやフォーマット内に設けられている見出しから判別した。重複して使用していると思われるフォーマットについては、両時期において使われているものとして評定した。

フォーマット類の中に、設定した各項目に関する情報を収集する欄がある場合は1、ない場合は0とした。今回、子どもや家族の記録（情報）が書かれていないフォーマット類の提出を依頼したため、実際に記録されている内容ではなく、フォーマット内に子どもの状態像、生育歴、家族状況などの情報を収集するための見出しが設けられているか否かによって評定を行った。評定を開始する前に、主たる評定者2名が項目について議論し共通認識を得るとともに、1件の評定を共同で行った。また随時、判断に迷う項目については討議した。評定は心理学を専門とする5名が行った。

1-3. 結果と考察

1) 入所前後

<子どもの状態像>

入所前後において、子どもの「身体的側面」について把握する項目が設けられていた乳児院は113ヶ所（97.4%）、「心理的側面」については109ヶ所（94.0%）と大半の乳児院において子どもの状態像を把握する項目が設けられていた。

心理的側面を具体的にみると、「生活リズム」は106ヶ所（91.6%）と多かった一方、「嗜好・居場所・魅力」については86ヶ所（74.1%）、「認知・言語発達」については79ヶ所（68.1%）、「情緒発達」については71ヶ所（61.2%）と減り、「恐怖や不安」は24ヶ所（20.7%）、「発達・知能検査所見」は22ヶ所（19.0%）、「自己意識・自己概念」は21ヶ所（18.1%）とさらに減った。まずは子どもの生活が安定するように食事や睡眠をはじめとした日常生活に関する情報把握につとめていると考えられる。情緒、恐怖や不安、自己意識・自己概念というのは、概念が抽象的であり、さらに入所前後となると子どもの状態像として情報を収集しにくい可能性がある。

<関係性の側面>

職員・家族・子ども同士について関係性を把握する項目が設けられていた乳児院は36ヶ所（31.0%）であった。入所前後ということから、まだ関係性について把握することが困難ともいえるが、乳幼児期の子どもの育ちは他者との関係性で大きく変わっていくことや、入所後、家族関係調整も乳児院の重要な役割となるため、入所時より関係性に注目して情報収集、把握することが求められるだろう。

<生育歴>

子どもの生育歴に関して、何らかの情報を把握する項目が設けられていた乳児院は108ヶ所（93.1%）であった。胎児期に関しては75ヶ所（64.7%）あったが、具体的に項目を設定して情報収

集している所は少なかった。一方、出生時・出生後の状況に関しては110ヶ所（94.8%）と大半の乳児院が項目を設けていた。具体的項目を見ると「健診の受診状況」は32ヶ所（27.6%）であったのに対し、「疾病歴や障害」が104ヶ所（89.7%）,「予防接種歴」が97ヶ所（83.6%）,「アレルギーの有無」が101ヶ所（87.1%）と多く、入所後の養育、特に子どもの生命に直結する情報をまずは収集していることが伺える。胎児期の育ちや環境は、生後の育ちにも影響を与えることが言われており、また、胎児期の状況を把握することは、保護者の生活状況を把握することにもなり、家族のアセスメントにもつながると考えられ、具体的に情報収集することが重要であると考えられる。

<家族状況>

家族状況を把握するシート・項目が設けられていた乳児院は97ヶ所（83.6%）であった。具体的項目をみると、年齢等の基本情報にとどまっておき、家族の機能やエコマップと地域とのつながりについては項目を設けている乳児院は少なかった。ただでさえ情報がない中での入所が多いといわれる中、家族関係をアセスメントするために必要な情報を網羅的に収集することが求められるだろう。

2) 入所中

<子どもの状態像>

子どもの状態像を把握する項目を設けていたのは115ヶ所（99.1%）であった。「身体的側面」については把握する項目を設けていたのは115ヶ所（99.1%）であり、「心理的側面」については113ヶ所（97.4%）とほぼ全ての乳児院で設けられていた。

「心理的側面」について詳しくみていくと、「生活リズム」については110ヶ所（94.8%）であり、さらに食事や睡眠など具体的項目を設けて把握している乳児院が多かった。また、「認知・言語発達」は100ヶ所（86.2%）と多くの乳児院で項目が設けられていた。「情緒発達」については90ヶ所（77.6%）と8割弱の乳児院で把握する項目が設けられていたが、さらに具体的項目が設定されているところは少なかった。また、「恐怖や不安」については11ヶ所（9.5%）,「自己意識・自己概念」については10ヶ所（8.6%）と1割にも満たず、これらの項目はどのように情報を収集していいかわかりにくい、つまり観察が難しい側面であると考えられる。

<関係性>

関係性の側面について把握する項目を設けていたのは73ヶ所（62.9%）と6割以上であったが、職員・家族・子ども同士など、具体的に関係性に着目する項目を立てている乳児院は少なかった。関わりや観察された内容は自由記述として記載されていると思われる。

3) 退所前後

<子どもの状態像>

乳児院退所にあたり、子どもの状態像を把握するためになんらかの項目を設けているのは98ヶ所

(84.5%)であった。身体的側面について項目を設定していたのは91ヶ所(78.4%)、心理的側面が93ヶ所(80.2%)と8割前後の乳児院で把握していた。心理的側面について具体的にみていくと、「生活リズム」については89ヶ所(76.7%)、「認知・言語発達」については78ヶ所(67.2%)、「情緒発達の様子」は65ヶ所(56.0%)であったのに対し、「恐怖や不安」は4ヶ所(3.4%)、「自己意識」は7ヶ所(6.0%)、「検査所見」は21ヶ所(18.1%)、「嗜好、居場所など」は46ヶ所(39.7%)であった。

4) アセスメントガイドの利用について

『乳児院におけるアセスメントガイド』をいずれかの時期で利用している乳児院は43ヶ所(37.1%)であった。アセスメントガイドを自分たちの使いやすいように改訂しながら取り入れている乳児院もある一方、まったく使われていない乳児院もあった。このアセスメントガイドは乳児院職員のアセスメント力向上を目指して作成されたものであることから、本ガイドの更なる活用が期待される。

1-4. まとめ

全体を通して、「子どもの状態像」の把握において、身体的側面や心理的側面の中の「生活習慣」に関しては項目設定もされ、入所前後・入所中・退所前後のどの時点においても情報収集がされていた。これは、乳児院が子どもの命を預かり、日々の丁寧な営みを基盤に養育する施設としての強みが表れているといえよう。また、発達検査についても、心理職を中心に訓練を受けた者が行う新版K式発達検査2001だけでなく、観察をもとに行う遠城寺式乳幼児分析的発達検査を用いたり、乳児院独自の発達チェックリストを作成したり、一般的な子どもの発達を表にまとめて指標とするなど、子どもの心理社会的な側面を捉える取り組みを行っている乳児院も少なくなかった。

一方、心理的側面の中の特に社会情緒的発達や関係性の発達に関しては、詳細な項目が設定されていないところも多かった。

心理的側面を詳しくみると、食事や睡眠、排泄などの「生活リズム」や「認知・言語発達」については具体的項目を設けて把握している乳児院が多かった。「情緒発達」について、大きく“情緒”として子どものその時の状態を把握する項目を設けていた乳児院は多かった一方、さらに具体的項目が設定されているところは少なかった。「恐怖や不安」や「自己意識・自己概念」についての項目を設けている場合はアセスメントガイドを利用している乳児院が多かった。

乳児期の子どもの発達は、身体的発達や生活リズムと大きく関係し、これらの情報は入所後の生活に直結するため、すぐにでも欲しい情報であるとともに、測定・把握しやすい面もある。

一方、心理的側面に関しては、数値として把握することが難しかったり目に見える形で現れないことも多く、養育者が観察したり、関わって感じたこと、見立てたことをもとに判断していくことが求められるため、乳児院職務経験が長い職員にとっては難しくないことかもしれない。しかし、新任職員が子どものアセスメントをする場合、実際にはこれらの項目はどのように情報を収集していいかわかりにくいと考えられる。さらに、深刻で多岐にわたる課題を抱えた子どもの入所が増える中、より

細やかに子どもの心理社会的状態をとらえることが求められる。それゆえ、見落とす可能性を防ぎ、具体的な心理的側面を把握し、養育につなげていくためにも、記録フォーマット等にどんな点に気を付けて観察すべきか、関わっていくべきか項目や記載があると、それらが一つの指標となり、かつチームで共有していきやすくなるのではないかと考える。

最後に、今回の調査はあくまでも記録フォーマット類に設定されていた見出しなどの形式から、各乳児院でどんな視点に基づいて情報把握を行っているかという点を中心にアセスメントの実態について把握することを試みるものであった。よって、今回の調査からは各乳児院が具体的にどのような情報を収集しているのかその記入内容や記入方法からアセスメントの実態を把握することはできていない。子どもや家族のアセスメントはチェックや数値のみで行えるものではなく、様々な情報から総合して行われるものである。フォーマット類に自由記述の欄を設けている乳児院は多く、実際にはその欄において心理社会的な子どもの状態像がきめ細やかに記述され把握されている可能性は十分にあるだろう。

そのため今回の調査から明らかになった乳児院のアセスメントにおける意義と課題は、あくまでも書式から推測されたものに過ぎないという限界があり、乳児院のアセスメントの実施の全容を明らかにしているものではない。

とはいえ、項目を設定することは、アセスメントの視点を方向付けることに寄与すると考えるならば、特定の子どもの状態像に関して項目が設定されていないということは、その観点について記録し、アセスメントを実施することが子どもとかかわる職員の裁量に大きくゆだねられるということの意味する。よって、アセスメントの実施者によってアセスメントの精度や質にばらつきが生まれることにつながるだろう。そのため、本調査では子どもの心理社会的側面については、各乳児院で情報が把握されていないとはいいきれないが、少なくともアセスメント実施者によって共通して捉えられておらず、その質もばらつきが大きい可能性は十分にあると考える。

引用文献

- 新たな社会的養育の在り方に関する検討会（編）（2017）. 新しい社会的養育ビジョン 厚生労働省
- 全国乳児福祉協議会 アセスメントツール作業委員会（編）（2013）. 乳児院におけるアセスメントガイドー社会的養護における人生初期のアセスメントー 子どもの養育の質を高めるためにー
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の将来ビジョン検討委員会（編）（2012）. 乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書

附録1 調査依頼書

「アセスメントシート・記録書式等」ご提供のお願い

乳児院における養育実践が子どもの発達にどのように影響を及ぼしているか効果検証を行うことを目的に、平成29年度は全国の乳児院において、子どもの情報を得たり、記録したりするためにどのような書類・調査票・アセスメントシート等が使用されているか、実態把握をしたいと考えております。つきましては、以下の書類等について、ご提供頂きますようお願い申し上げます。

送付頂いた資料はあくまで実態把握のために使用し、乳児院名が公表されることはございません。お手数おかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

研究代表者 東京大学大学院 遠藤利彦

子どもについての情報収集や記録のために使用される書類・調査票・記録票・シートのフォーマット（様式）を可能な限りすべてご提供ください。対象時期は子どもの入所受付～退所です。

【入所前後】入所にあたり用いる書類や調査票

- 例) 入所時間診票、入所時アセスメント、入所前調査票、受付票
- 生活状況聞き取りシート
- 家族状況聞き取りシート、家庭状況調査票
- 健康記録票（アレルギーや病気、障害、易感性、予防接種など）
- 一時保護受付票

【入所中】子どもの成長や養育を記録するために用いる書類や調査票

- 例) 日々の記録フォーマット、夜間記録票
- ケース経過記録フォーマット
- 面会記録票
- 通院記録票
- 自立支援計画書、個別養育計画書(月目標シート)
- 児童相談所等他機関との連絡記録フォーマット
- 発達検査・心理所見フォーマット

【退所時】家庭復帰や措置変更の際に用いる書類や調査票

- 例) 退所にあたっての経過記録票や意見書
- 措置変更先への情報提供書、アフターケア計画書
- 発達検査・心理所見フォーマット

締切り：7月5日（水）

* 同封の返信用封筒に入りきらない場合は、お手数おかけいたしますが着払いでお送りください。

〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 983
子どもの虹情報研修センター 南山宛
045-871-8011

附録 2 項目一覧

【入所前後】

| | | | |
|-------------------|---------------------------|--|-------------------------------|
| 子どもの状態像を把握するための情報 | | | |
| | アセスメントガイド | | 田中ビネー知能検査 |
| | 身体的側面 | | その他 |
| | 身体発育・健康 | | 自己意識，自己概念 |
| | 身体運動発達 | | 自他の区別 |
| | 心理的側面 | | 自己感覚(自分の中で生じた感覚がわかるようになることなど) |
| | 生活リズムと基本的な生活習慣 | | 自意識 |
| | 睡眠 | | その他 |
| | 食事 | | 嗜好，居場所，魅力 |
| | 着脱衣 | | 好きな食べ物 |
| | 清潔・入浴 | | 好きなぬいぐるみやおもちゃ |
| | 排泄 | | 好きな身の回りの物 |
| | その他 | | 好きな遊び |
| | 情緒発達の様子 | | 好みの場所や遊具 |
| | 泣くこと | | 子どもの持つ能力 |
| | 安心感や信頼感 | | 子どもの魅力 |
| | 人見知り | | 移行対象 |
| | 探索行動 | | 空想上の人や動物とのかかわり |
| | 欲求や情動のコントロールの様子 | | その他 |
| | 共感性 | | その他 |
| | その他 | | 関係性の側面 |
| | 内容 | | 職員との関係 |
| | 恐怖や不安など | | 家族との関係 |
| | 場所に対する恐怖・不安反応 | | 子ども同士の関係 |
| | 人に対する場所に対する恐怖・不安反応 | | そのほかの人との関係性 |
| | 特定の事象や対象に対する場所に対する恐怖・不安反応 | | その他子どもに関する情報 |
| | その他 | | 生育歴 |
| | 認知・言語発達 | | アセスメントガイド |
| | 言語発達 | | 入所・保護委託となった問題の経緯 |
| | 発語 | | 胎児期の状況 |
| | 言語理解 | | 胎児に悪影響とされている化学物質の接種 |
| | 思考などの認知機能 | | 健診・受診の状況 |
| | その他 | | 母親のストレス状況 |
| | 発達知能検査・心理発達検査の所見 | | 母親の精神状態 |
| | 新版 K 式発達検査 | | 母体の疾患 |
| | 遠城寺式発達検査 | | 胎児虐待の有無 |
| | 津守・稲毛乳幼児精神発達診断検査 | | 母体と胎児の異常 |

| | |
|------------------------------|--|
| 出生時・出生後の身体的発育，栄養状態， 疾病やケガ | |
| 健診の状況 | |
| 出生時の情報 | |
| 出生時の異常 | |
| 発育状況 | |

| |
|-------------|
| 出生後の身体・運動発達 |
| 母乳・人工乳の別 |
| 疾病歴や障害 |
| 予防接種の状況 |
| アレルギーの有無 |
| その他 |

| 家族の状況の把握 | |
|------------------------|--|
| アセスメントガイド | |
| 家族の基本情報 | |
| ジェノグラム | |
| 家族成員の情報（基本情報，疾病，問題，失業） | |
| その他 | |
| 家族全体の状況 | |
| 経済状況と住まいの状況 | |
| 家族の機能 | |
| 家族関係 | |

| その他の家族の特徴 | |
|-----------------|--|
| 地域とのつながり | |
| エコマップ | |
| 相談者の意向及び担当者の意見 | |
| 本人の意向 | |
| 保護者の意向 | |
| 乳児院の意見 | |
| 児童相談所からの注意・指示事項 | |
| その他 | |
| 一時保護受付票 | |
| ショートステイ受付票 | |

【入所中】

| |
|-------------|
| アセスメントガイド |
| 日々の記録 |
| 夜間記録 |
| 睡眠記録 |
| 家庭支援計画・経過記録 |
| 予防接種記録 |
| 心理支援計画・経過記録 |
| 面会・外泊記録 |
| 里親記録 |

| |
|------------------|
| 通院記録 |
| 看護記録（検温・投薬・呼吸確認） |
| 他機関とのやり取り記録 |
| 自立支援計画・個別支援計画 |
| 一時保護経過記録 |
| 静養室経過記録 |
| 新生児室経過記録 |
| カンファレンス用資料 |
| その他 |

| 子どもの状態像を把握するための情報 | |
|-------------------|--|
| アセスメントガイド | |
| 身体的側面 | |
| 身体発育・健康 | |

| |
|----------------|
| 身体運動発達 |
| 心理的側面 |
| 生活リズムと基本的な生活習慣 |
| 睡眠 |

| |
|---------------------------|
| 食事 |
| 着脱衣 |
| 入浴・清潔 |
| 排泄 |
| その他 |
| 情緒発達の様子 |
| 泣くこと |
| 安心感や信頼感 |
| 人見知り |
| 探索行動 |
| 欲求や情動のコントロールの様子 |
| 共感性 |
| その他 |
| 恐怖や不安など |
| 場所に対する恐怖・不安反応 |
| 人に対する場所に対する恐怖・不安反応 |
| 特定の事象や対象に対する場所に対する恐怖・不安反応 |
| その他 |
| 認知・言語発達 |
| 言語発達 |
| 発語 |
| 理解 |
| 思考などの認知機能 |
| その他 |
| 発達知能検査・心理発達検査の所見 |
| 新版 K 式発達検査 |
| 遠城寺式発達検査 |

| |
|-------------------------------|
| 津守・稲毛乳幼児精神発達診断検査 |
| 田中ビネー知能検査 |
| その他 |
| 自己意識, 自己概念 |
| 自他の区別 |
| 自己感覚(自分の中で生じた感覚がわかるようになることなど) |
| 自意識 |
| その他 |
| 嗜好, 居場所, 魅力 |
| 好きな食べ物 |
| 好きなぬいぐるみやおもちゃ |
| 好きな身の回りの物 |
| 好きな遊び |
| 好みの場所や遊具 |
| 子どもの持つ能力 |
| 子どもの魅力 |
| 移行対象 |
| 空想上の人や動物とのかかわり |
| その他 |
| その他 |
| 関係性の側面 |
| 職員との関係 |
| 家族との関係 |
| 子ども同士の関係 |
| そのほかの人との関係性 |
| その他子どもに関する情報 |

【退所前後】

| |
|---------------|
| アセスメントガイド |
| 退所にあたっての経過記録 |
| 家庭復帰チェックリスト |
| 情報提供 |
| 慣らし保育計画・経過記録書 |
| アフターケア |

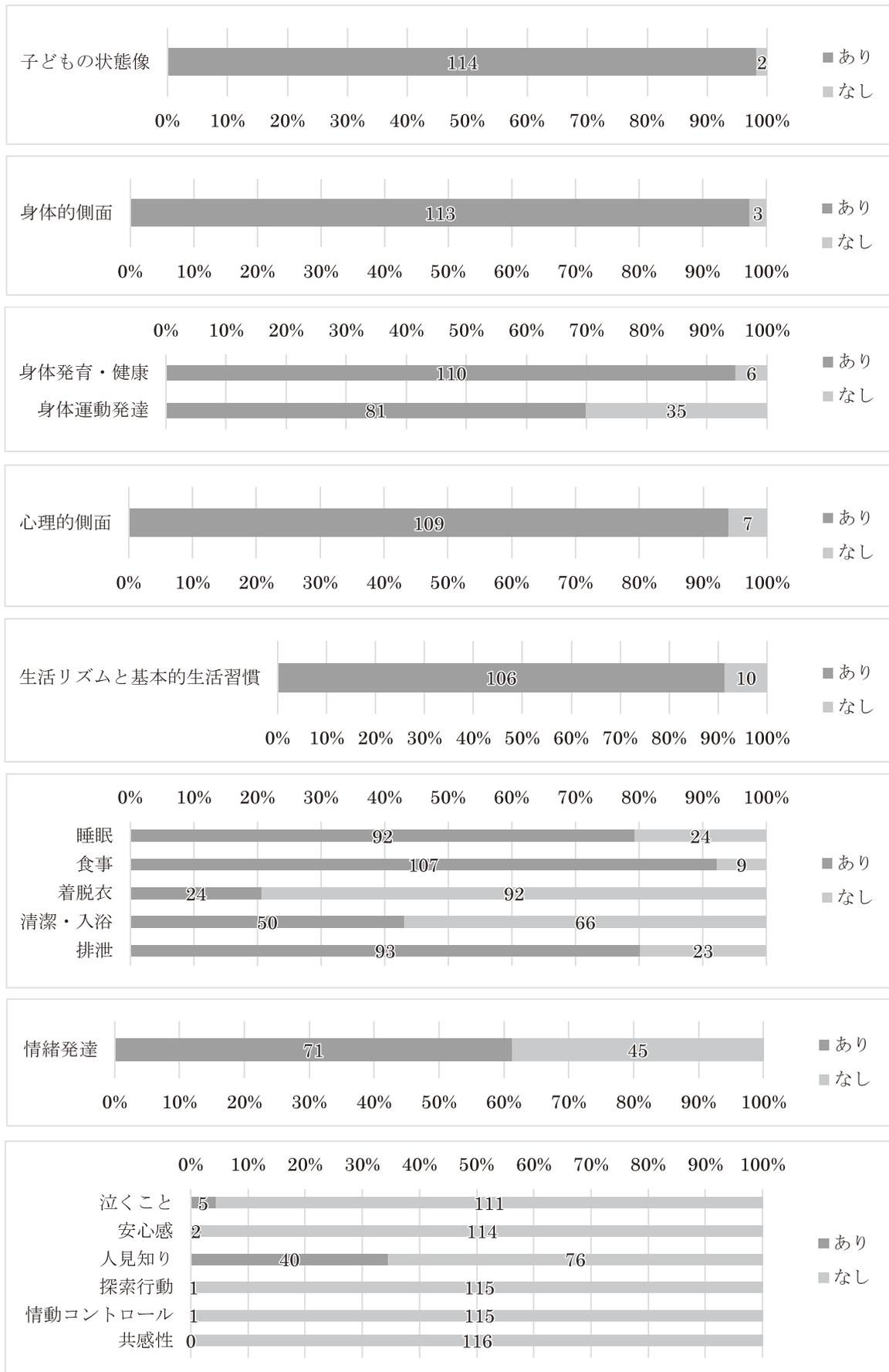
| |
|---------------------------|
| 子どもの状態像を把握するための情報 (発達) |
| 身体的側面 |
| 身体発育・健康 |
| 身体運動発達 |
| 心理的側面 |

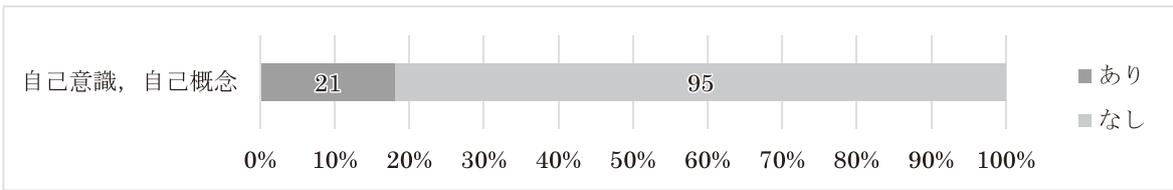
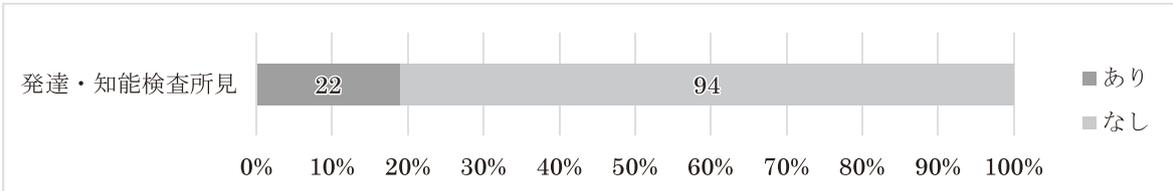
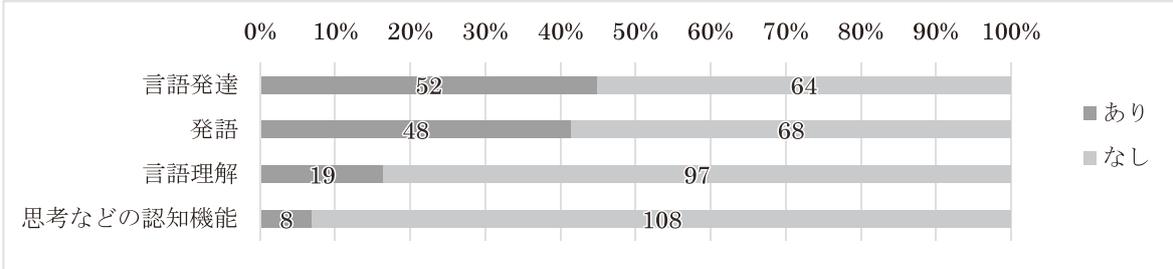
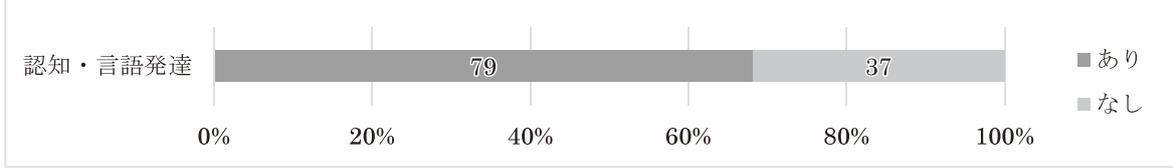
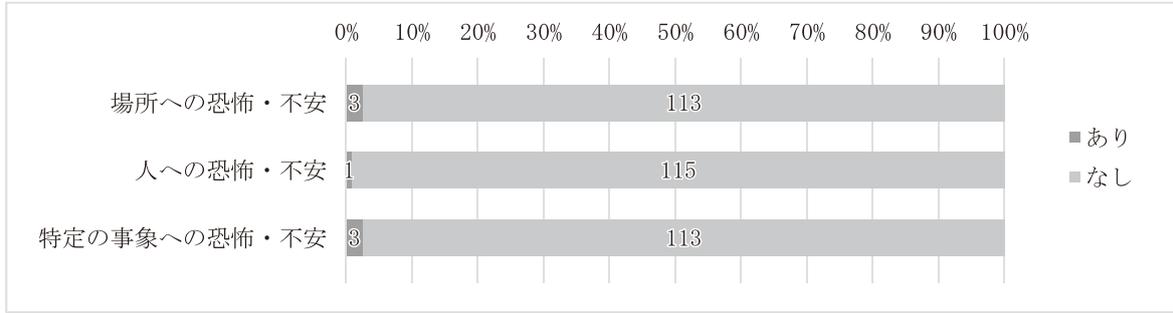
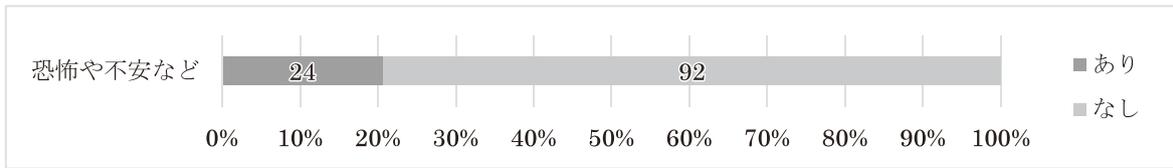
| |
|------------------|
| 生活リズムと基本的な生活習慣 |
| 情緒発達の様子 |
| 恐怖や不安など |
| 認知・言語発達 |
| 発達知能検査・心理発達検査の所見 |
| 自己意識, 自己概念 |

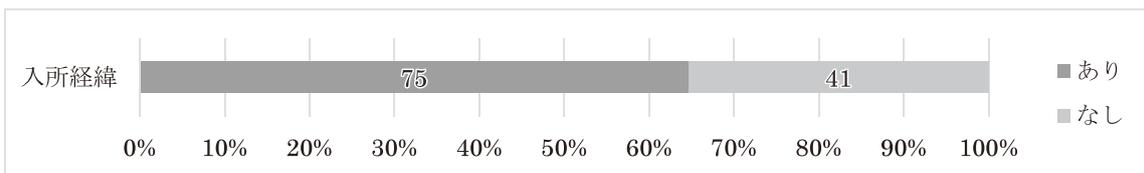
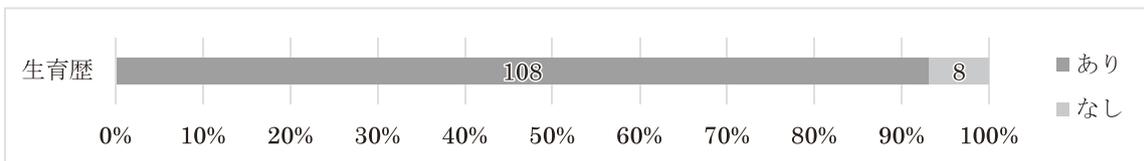
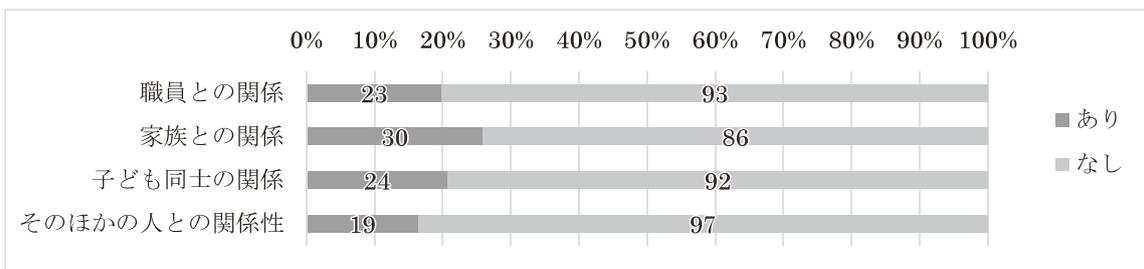
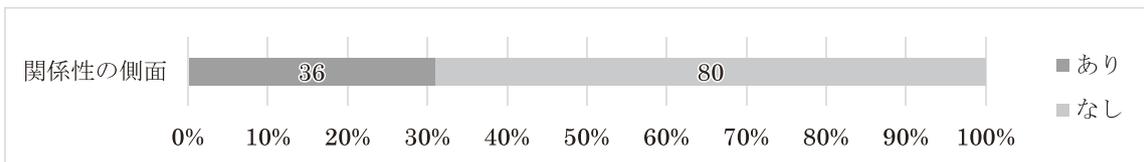
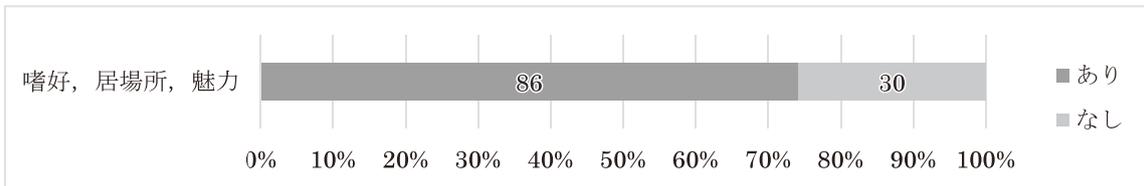
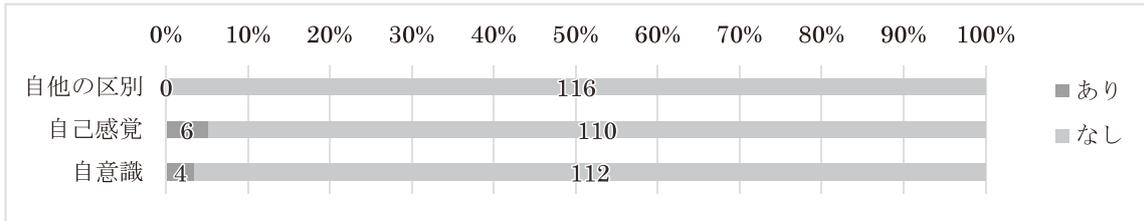
| |
|--------------|
| 嗜好, 居場所, 魅力 |
| 関係性の側面 |
| その他子どもに関する情報 |
| 家族に関する情報 |
| その他 |

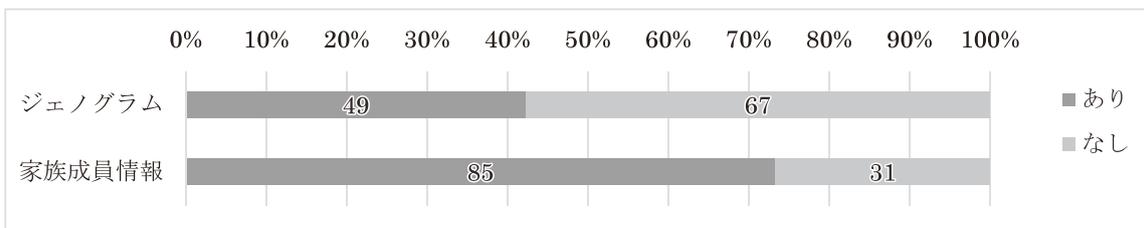
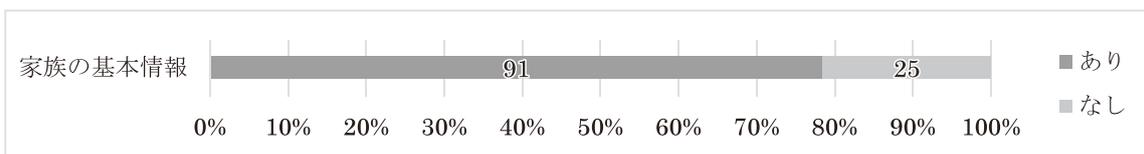
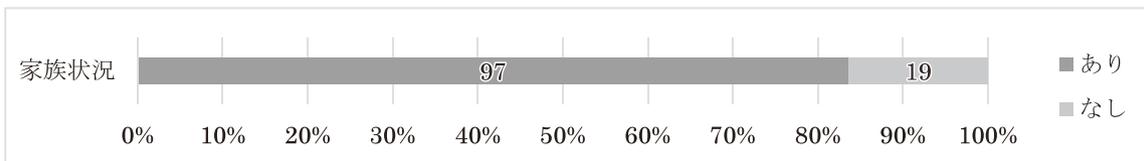
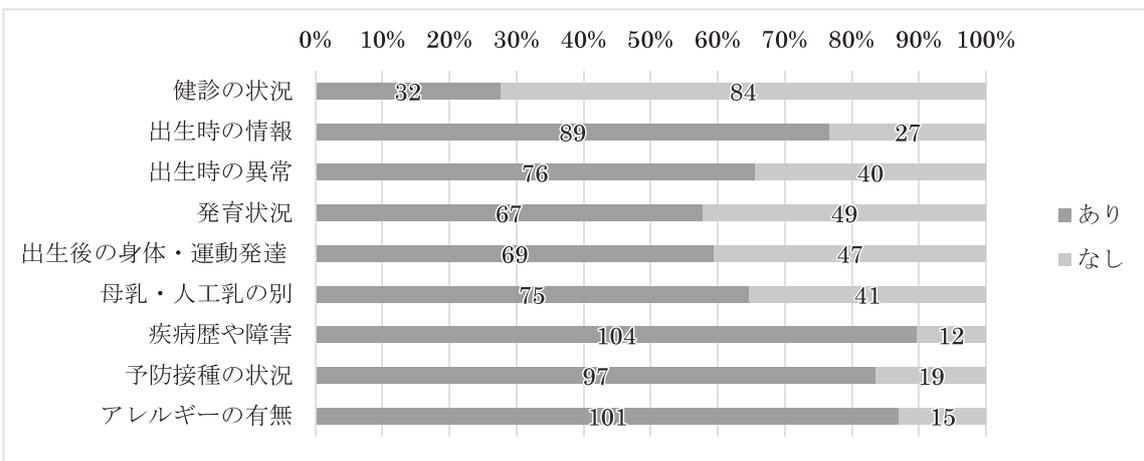
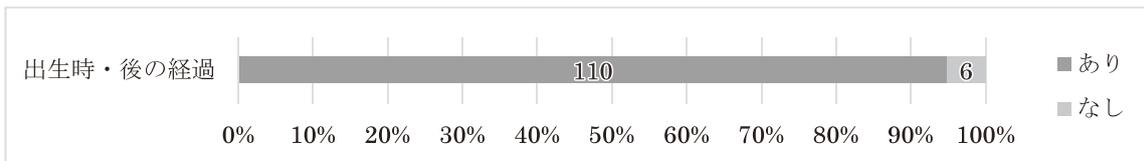
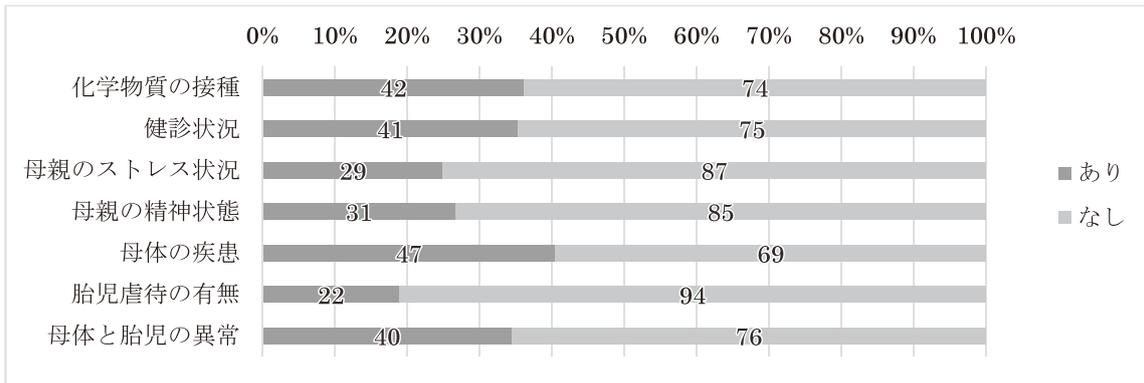
附録3：結果図

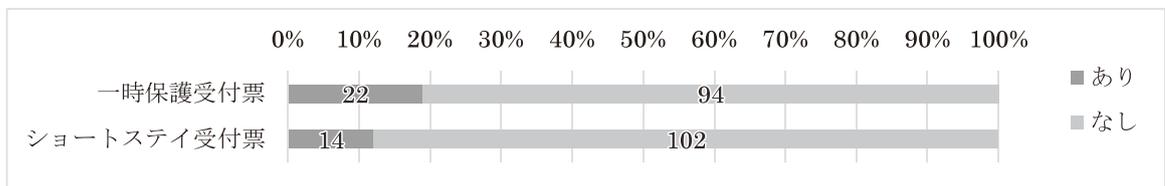
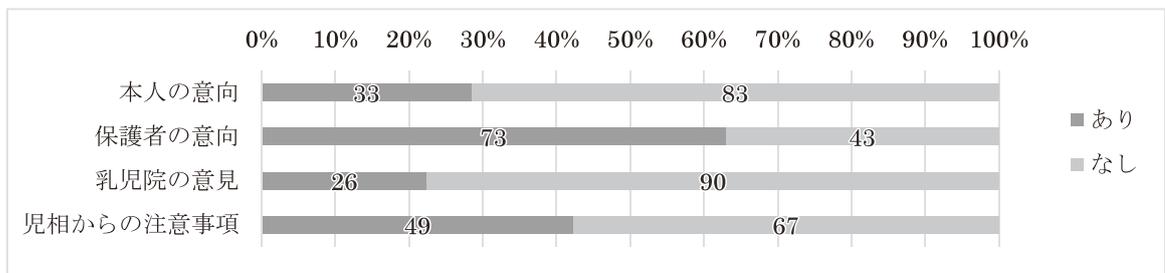
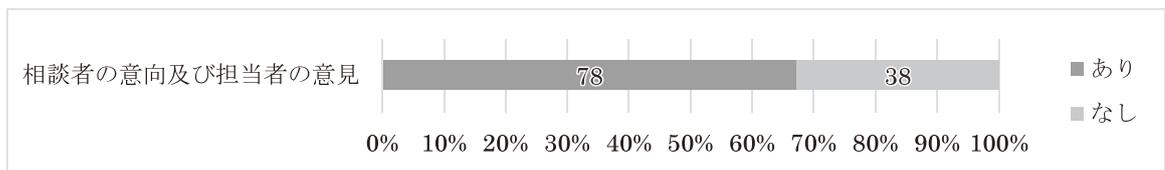
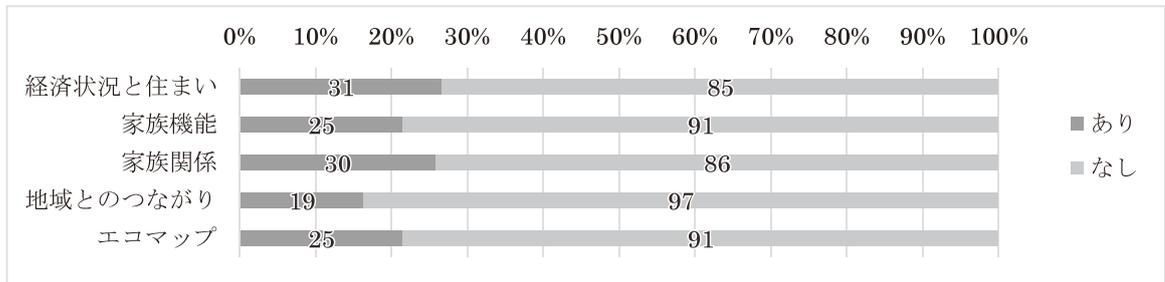
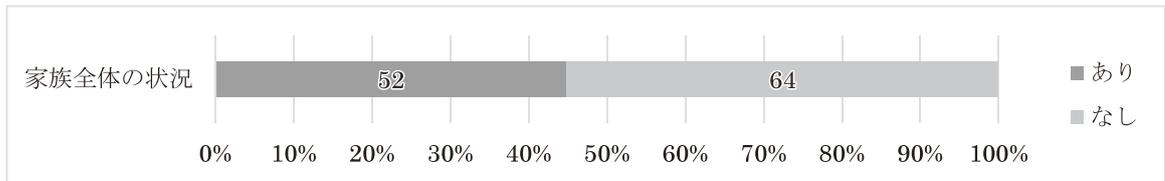
<入所前後>



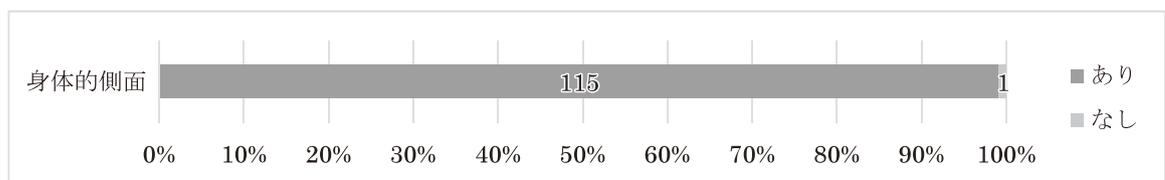
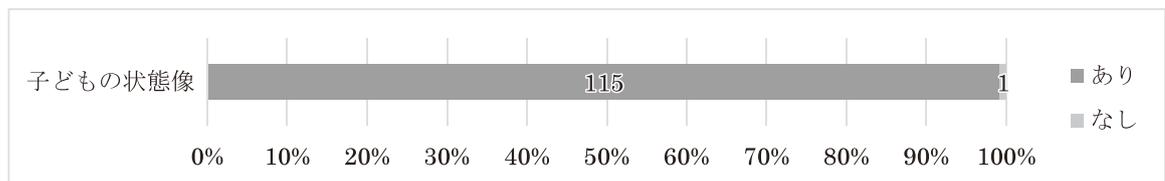


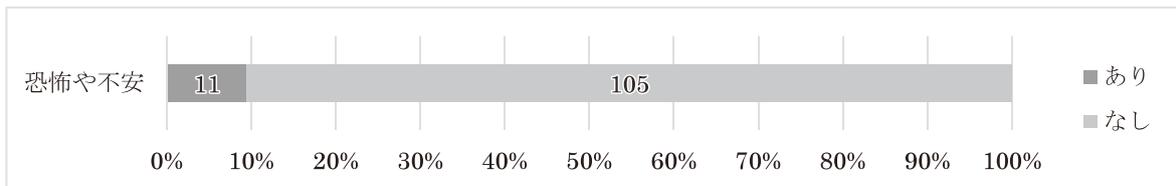
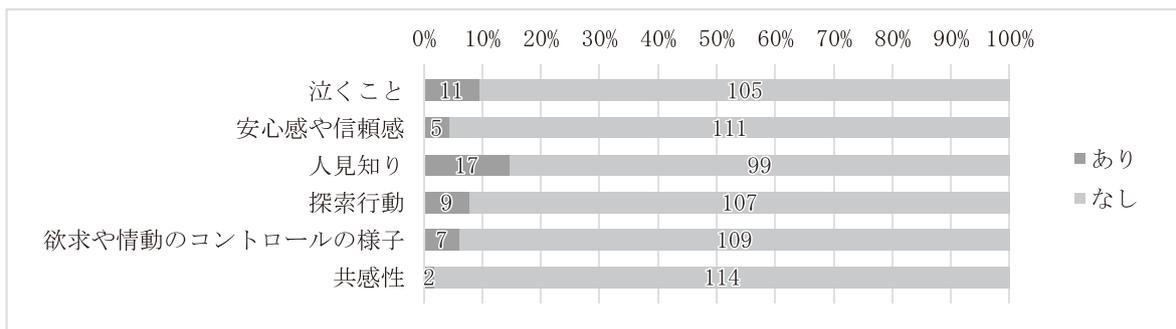
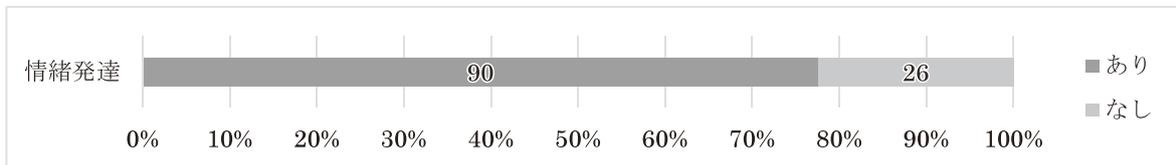
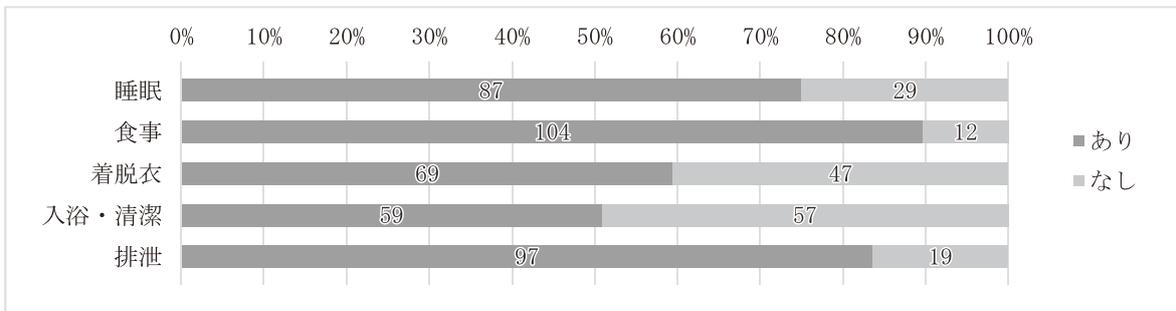
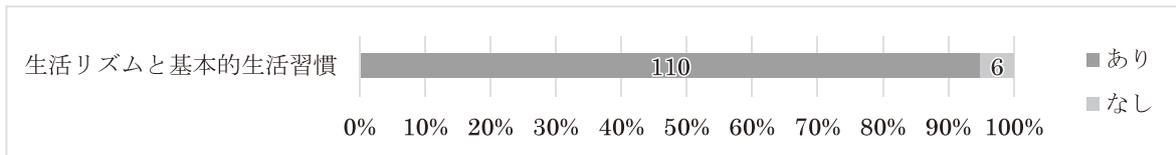
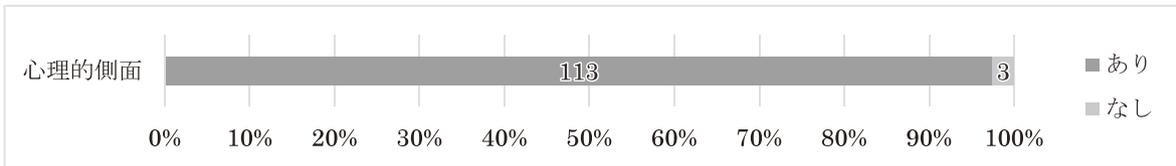
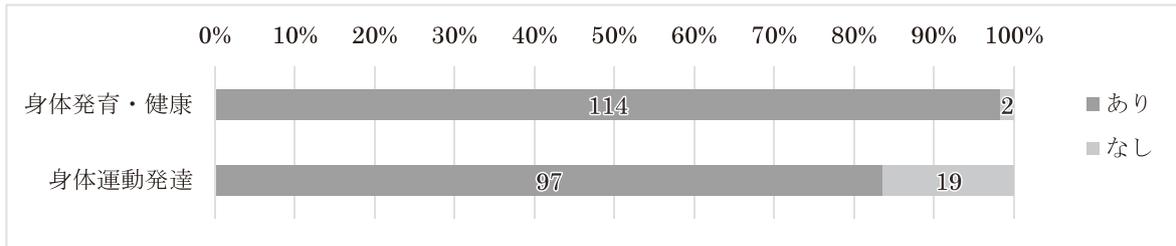


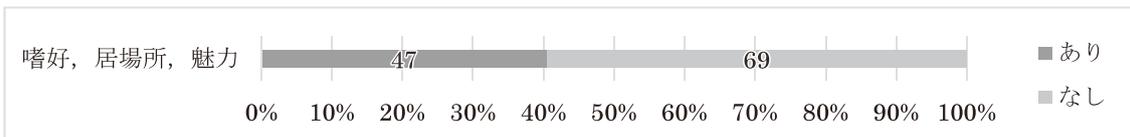
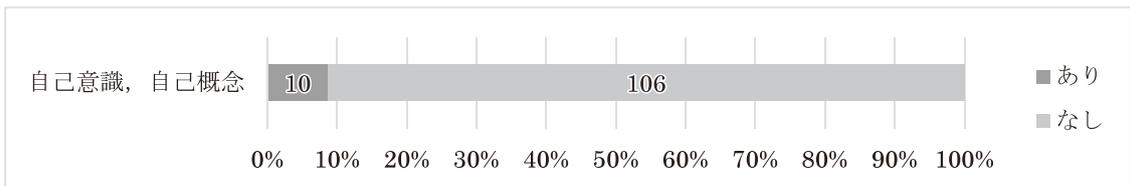
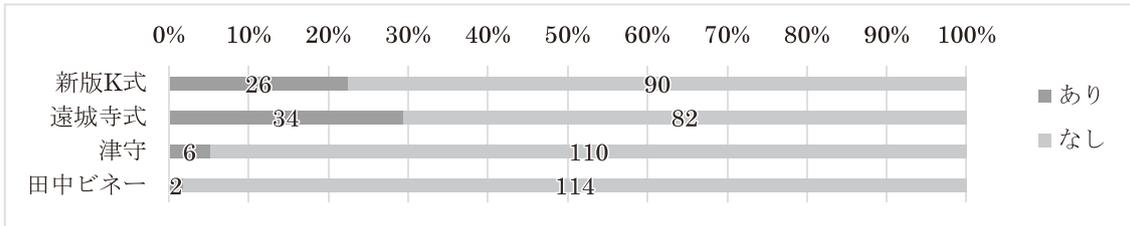
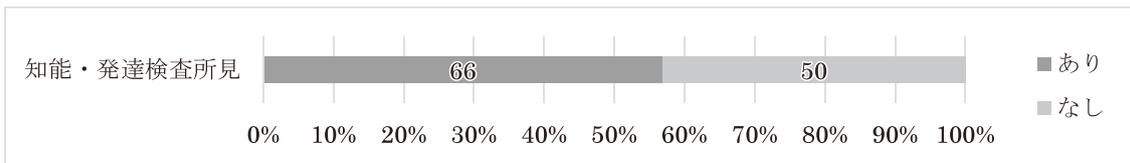
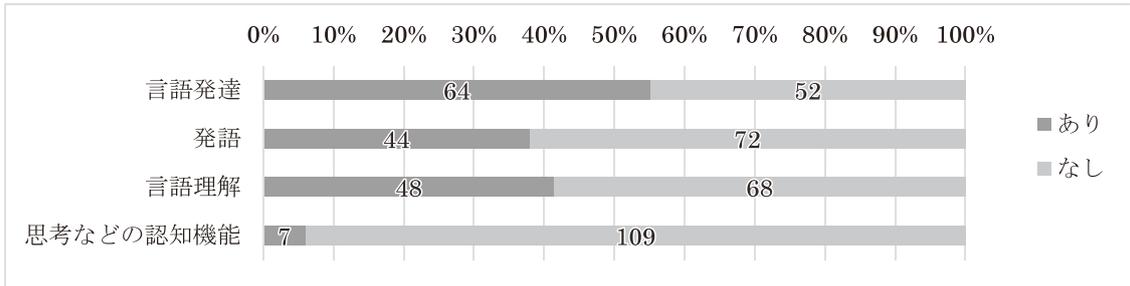
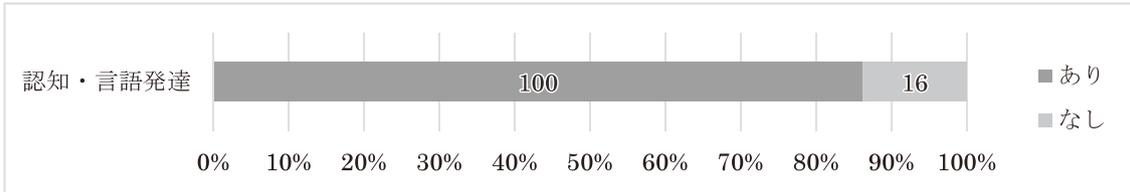
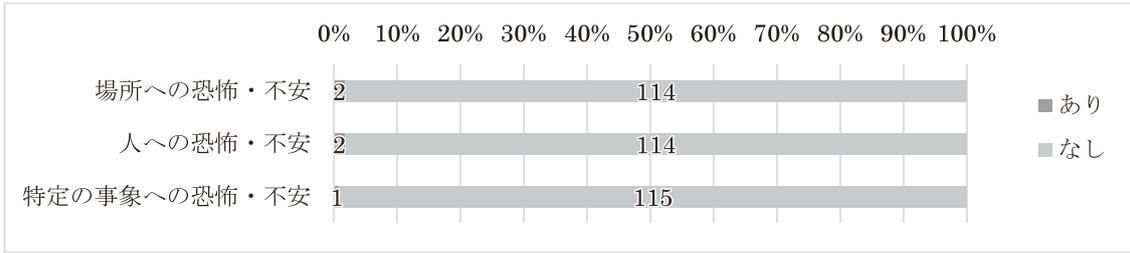


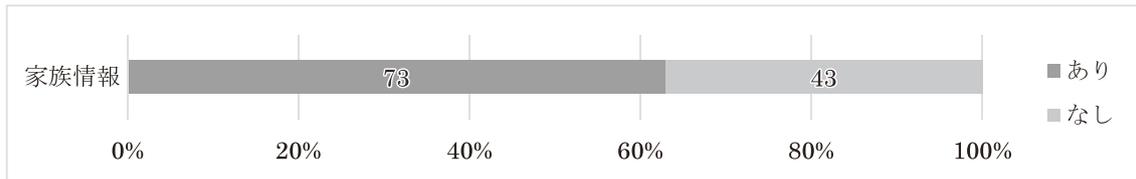
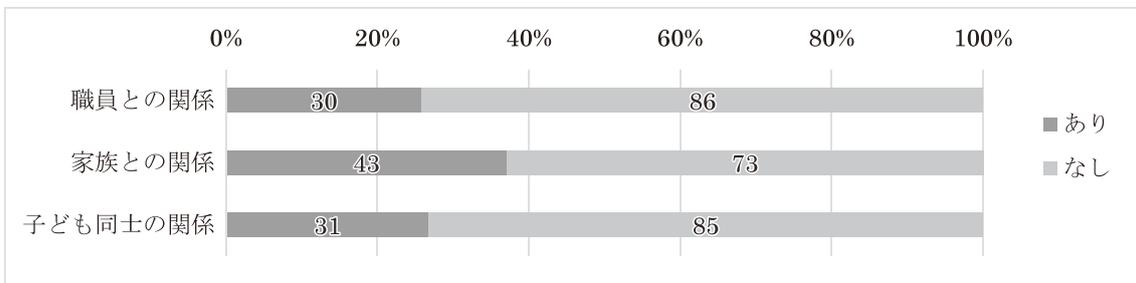
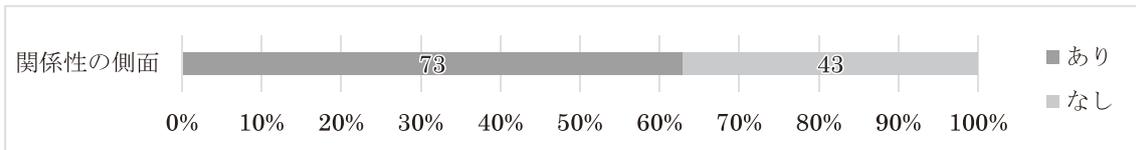


<入所中>

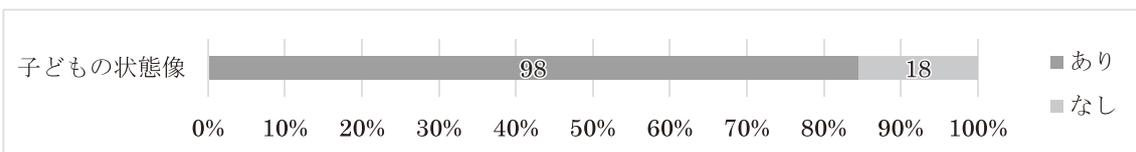
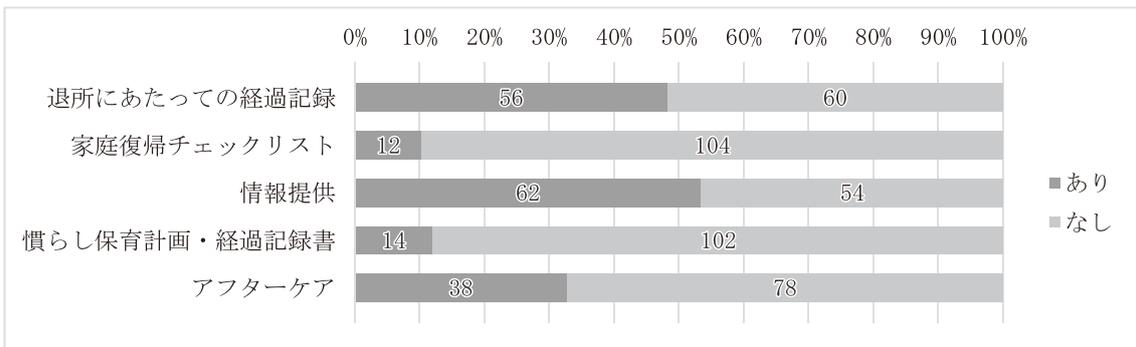


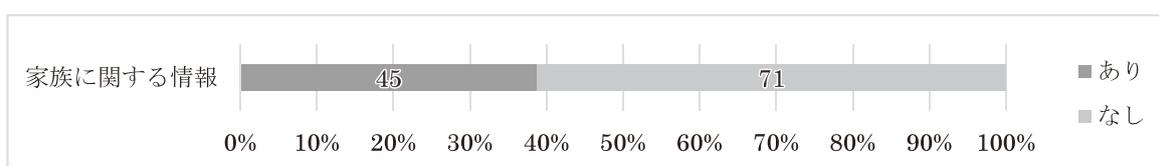
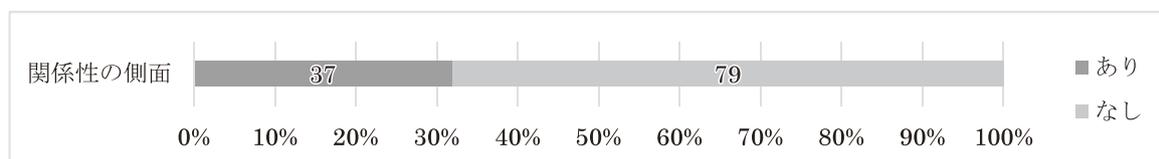
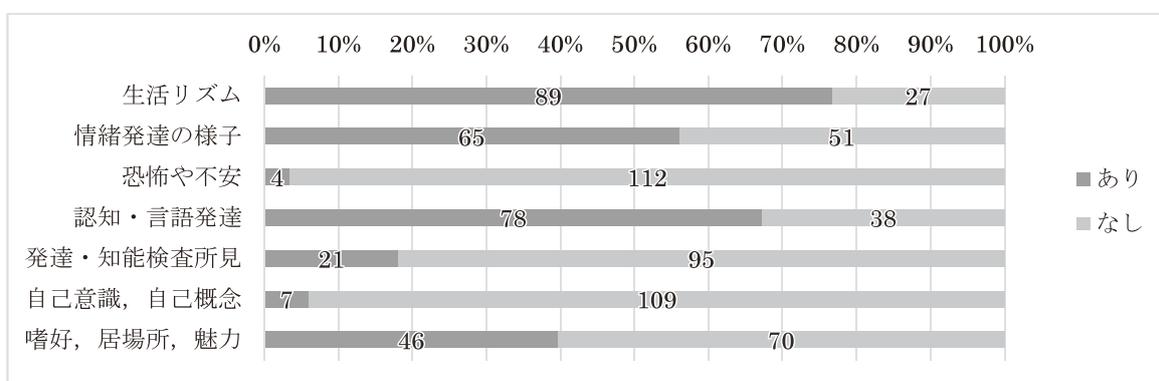
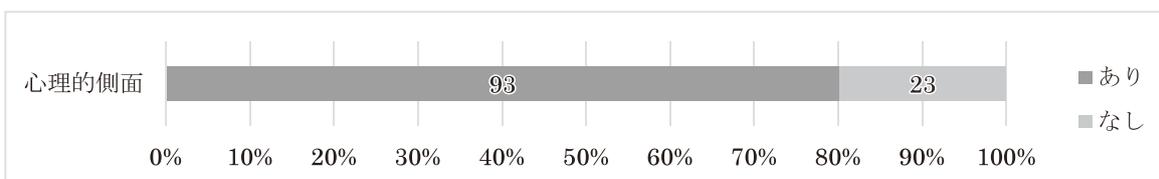
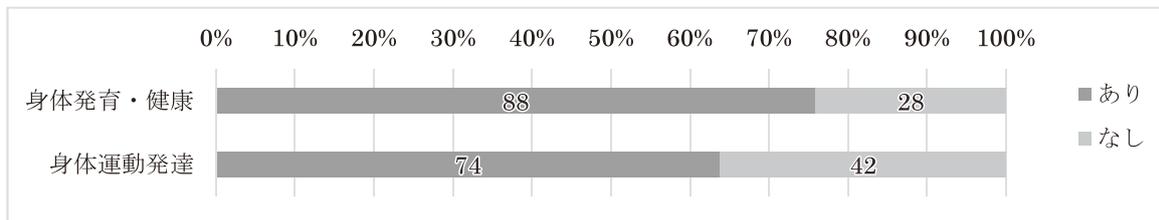
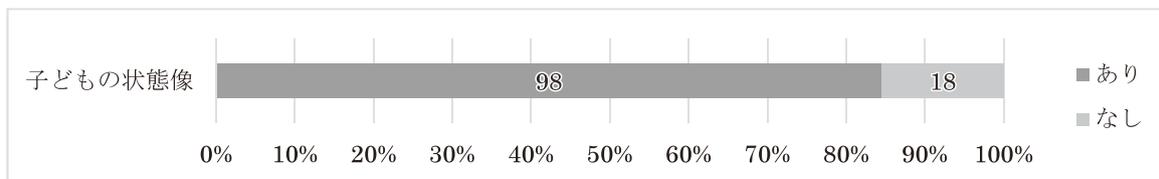




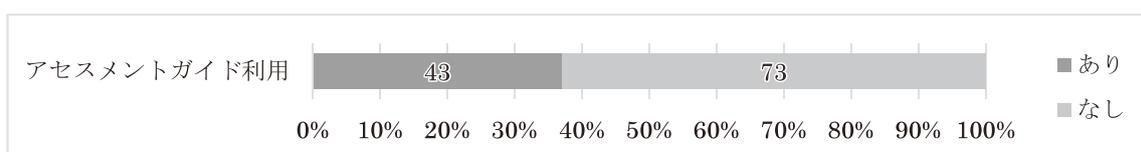


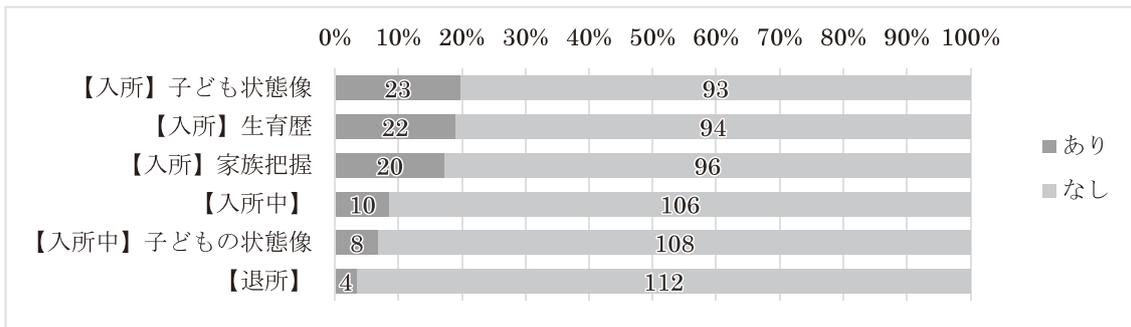
< 退所前後 >





<アセスメントガイドの利用>





(文責 南山今日子)

第2節 各施設で使用されているシートの紹介

本節では、実際に乳児院で使われているシートを紹介する。今回、多くの資料をみていく中で、各乳児院で様々な工夫がされている様子が伝わってきた。そのすべてを紹介することは紙面上難しいが、その中でも全国の乳児院で共有したい16種のシートを紹介する。

2-1. 全体

1) マニュアル

| | |
|---|-----------|
| フォーマット名 | 記録の種類と具体例 |
| 乳児院名 | 積慶園 |
| <p>ポイント：形式，育成 記録について一覧になっており，全体把握しやすい。記述の重複を防ぎ，ただでさえ多忙な現場において業務の整理にもつながる。内容も丁寧に書かれており，「何のために記録を書くか」記載されていることで，記録をつける意義，モチベーションの維持につながる。</p> | |

15. 記録のあり方 < 5. 記録の種類と具体例 >

5. 記録の種類と具体例

(1) 日常記録 記録用紙は状況によって更新されるものである。更新されたものは原紙ファイルに保管。

| 記録の種類 | 内容 |
|-------------|---|
| 日誌 | その日の勤務者、行方及び研修予定や通信・来訪者・受信者・連絡事項を記録し、職員間の連携を図るもの。 |
| 健康日誌 | 通病の予定や通病者、子どもの体調や健康に関する申し送り、入浴などについて記録するもの。 |
| 通院記録 | その日の受診内容、処方箋などについて記録するもの。 |
| 保育日誌 | 当日の養育担当者が、その日の子ども一人ひとりの活動や様子を記録するもの。 |
| ベビノート | 新生児扱い時期（おおよそ生後2ヶ月未満児）に当日の養育担当者が、その日の子どもの様子を記録するもの。生後2ヶ月以降は、保育日誌に記録していく。 |
| 昼間観察日誌 | その日の9:00～18:00までの1日の観察日誌で、職員や子どもの配属や様子を、時間を遡って記録するもの。観察中は15分複診チェックを行う。 |
| 夜間観察日誌 | 18:00～翌9:00までの1日の観察日誌で、子どもの様子を、時間を遡って記録するもの。観察中は15分複診チェックを行う。 |
| 通信面会簿 | 保護者や関係機関との通信や面会の出来事を記すもの。本院からの架電についても、同様に記録する。 |
| 外出・外泊簿 | 外出や外泊時に保護者に記入してもらい、外出泊時の貸し出し物や私物の確認をするもの。 |
| 宿簿簿 | 保護者がサポートルームに宿泊する場合に記入してもらい、その様子を記録するもの。 |
| 連絡票及び申し送り事項 | 職員間の伝達事項や、保護者や子どもについての着払いの動きなどを記録するもの。 |

(2) ケース記録

| 記録の種類 | 内容 |
|-----------------|---|
| ケース写真 | 入所時、退所時の写真を撮影し、ケースファイルに綴じ込む。その他家族の写真もあれば綴じる。 |
| 児童記録票 | 入所時に児童相談所から届く、入所児を把握するためのもの。児童の身体的・精神的状況、生後歴及び父親母親兄弟姉妹の性格や特徴、家族構成・居住状況・地域との関わり、妊娠中・出産時の状況等が記載されている。 |
| 児童相談所援助指針票 1, 2 | 1. 児童相談所の担当 CW 立案の「援助指針の作成及び評価」 2. 児童相談所の担当 CW 立案の「面会・通信・外出・外泊の確認事項」 |
| 医学判定書 | 入所時に、児童相談所診療所で小児科医師による診断書 |
| 入所時の指診表 | 入所時に、入所児とその同行者に面後を行い、児童記録票に記載された状況に加え、現在の身体の健康状態・栄養方法・心身の発達状況などを聞き取り記録するもの。 |
| 入所に伴う書類・所持品 | 入所時の指診票の裏面に、入所時の書類や所持品を記録し、退所時に確実に返却出来るようにするもの。(退所時は、退所に伴う書類・所持品に記入する) |
| 予防接種承諾書 | 在院中の予防接種の承諾を保護者に得たもの。 |
| 入所時観察記録 | 入所より1週間、子どもの様子を記録するもの。 |
| 支援計画 | 入所時と年度始め4月、及び下半期の10月に子どもや保護者の現在状況と今後の自立支援計画をまとめたもの。グループから、栄養面から、健康面から、家庭支援・心理担当者からの配慮を含む。 |

15. 記録のあり方 < 5. 記録の種類と具体例 >

| 記録の種類 | 内容 |
|----------------|--|
| 個別援助計画 | 月毎の援助計画を言う。グループから、栄養面から、健康面から、家庭支援・心理担当者からの配慮を含めて、担当養育者が計画し、毎月の職員会議で把握し日常業務の基礎となるもの。 |
| 退所時の发育発達記録 | 退所時、保護者などに在院中の子どもの様子を記し手添するもの。(コピーを取りケース記録にも綴じ込む) |
| 在院中の運動機能の発達記録 | 運動機能の発達について、出来た時期と月齢を記入するもの。 |
| 児童福祉施設入所児現況報告書 | 本院での入所児児について、发育発達の様子や保護者の状況等を、児童相談所に年度ごとに報告するもの。 |
| 通院・往診等の受信日一覧表 | 医療機関に、いつかかったか、病名や処置など、健康記録から個別に抜粋し記したものを。 |
| 通院・往診等の記録 | 通院往診等の受信日一覧の他に、詳細な通院報告を記録するもの。わかりやすい受診別別に記録する。 |
| 入浴記録簿 | 入浴時に、まとめられた記録を綴じる。 |
| 身長体重測定表 | 毎月の身長・体重を一覧表やバーセントイル値にまとめたもの。 |
| 保育記録 | 保育日誌に記された個別の記録を綴じたもの。 |
| 保護者状況 | 外泊・通信・面会の状況を月ごとにまとめたもの。(裏面) 保護者及び関係者通信・面会・外出・外泊一覧表 |
| 普通預金一覧 | 入所中、施設に入金されていた児童手当を退所時に保護者や移行先の施設にお渡しした際に受け取りサインをもらったもの。 |
| 体温表 | より個人を把握するために一連の流れを通した経過の把握を目指し、子どもの様子がひと目でわかるように記録するもの。そこには、1週間単位で熱型・菌薬等個人の健康に関する記録、食物摂取状況の記録、面会・通信状況の記録をするようになっている。 |
| ベビー記録表 | 新生児扱いの子どもの対象とし、体温表とセットで使用する。子どもの様子を細かく記録するもの。 |
| 病児観察記録表 | 有熱時等、病児の様子や処置等を1時間ごとに記録していくもの。 |
| ケースカンファレンス | ケースカンファレンスや協議会など実施された場合に、個別に綴じていく。 |

【ケースファイル綴じ方】
上記の記録類を、「ケースファイル見本」に沿って綴じて行く。
また、必要に応じて、「入浴記録」、「ケースカンファレンス記録」等、インデックスを付けながら、見やすいように綴じていく。

入所と同時に手元に入所出来る場合や、入所後に押入れされる場合もあるが、次のものについては、すくに必要な部分のコピーを取って控えておくこと。
◇母子手帳コピー：入所時及び退所時
妊婦出産状況、出生産簿、予防接種状況などが記されている部分は必須。
◇保護証・受診証コピー：変更があればその都度控えておく。

(3) 移行記録・退所記録

乳児院で生活してきた子どもたちは家庭引取りや措置変更による他施設へ移行することになる。乳児院でどのように生活して、成長してきたのかを記録にまとめ、移行先への引き継ぎを行う。

1) 移行記録

移行先の乳児院での育ちを伝える移行資料を作成し、事前に移行先の施設へお渡しする。家庭引取りの場合、移行資料は必要ないが、個々のケースによって資料を作成し、保護者へもお渡しする場合があります。

移行資料

★退所時に、移行先の施設につなぐ資料としている。

| 記録の種類 | 内 容 |
|--------------|--|
| 入所時の 発達記録 | 入所時の発達発達の様子を項目ごとに記録したもの。 |
| 現在の 発達記録 | 退所時の発達発達の様子を項目ごとに記録したもの。予備記録・主な疾病・健康・生活リズム・担当者からのメッセージも記録する。 |
| 移行資料 | 児童記録票・児童相談所援助指針票 1、2・医学判定書・支援計画（入所時から）・個別援助計画（退所前の2～3ヶ月分）・医療記録・現在の発達発達記録・入所時の発達発達記録・今後について |

現状報告書

★移行練習を始める前に、移行先への引き継ぎとして、その時点での発達発達記録を以下のように、わかりやすくまとめ、「現状報告書」として、作成し、ケースの引き継ぎを行う。

★また、随時開催される協議会資料として使用する。

| | |
|-------|--|
| 現状報告書 | 【現在の発達発達記録】健康、食事、運動、排泄、着脱、睡眠、清潔、社会性、情緒、言語、理解、生活、遊び、乳児院の中で大切にしてきたこと 【保護者について】家族状況、ジェノグラム、保護者の生い立、保護者との関わりの様子から、協議会内容など |
|-------|--|

2) 移行練習の記録

移行練習で感じる複雑な思いを、言動や行動など様々な形で子どもたちは表現するため、子どもたちの移行練習中の姿や乳児院に異なって来てからの姿などを細かく記録する。日々対応する職員が異なる場合や、移行先施設の職員も日々対応者が異なる場合があるため、互いの情報共有の他、移行練習への送り出し時や、移行練習後に迎え入れる子どもの状態を把握するために記録をつけていく。

3) SS 児・一時保護児の退所記録

個々のケースによって、記録を用意し、関係機関への情報提供及び、保護者への情報提供などを行う。

(4) アルバム

子どもたちの成長を知る上で、アルバムも記録の大切な1つである。乳児院で生活してきた子どもたちが、乳児院で生活していた頃のことを知りたいと思っても、必ず話ってくれる職員が専ら別院にいるとは限らない。アルバムを見て、乳児院でどのように生活していたのかということがわかるように、写真と文字で記録していくことが大切である。

(5) アフター記録

他施設への移行や家庭引取り、里親委託など、乳児院を退所した子どもたちへの訪問や電話でのやり取りなどを記録していく。

2-2. 入所早期

1) アセスメント (チェックリスト)

| | |
|---|-------------|
| フォーマット名 | 行動観察チェックリスト |
| 乳児院名 | 米子聖園ベビーホーム |
| <p>ポイント：形式、育成</p> <p>入所後1週間という早期にチェックでき、項目立てがされていることで、もれなく確認できる。また、どの点を観察すればいいかわかりやすく、初任者も取り組みやすい。気になる項目について気づくことができ、見立ての材料になる。</p> <p>○×で記載できない時に△表記にして書けることはよい。</p> | |

5-3

行動観察 (入所1週間内) チェックリスト H28年 3月1日
乳幼児用虐待チェック

氏名 _____ 担当者 _____

- * 身長・体重が有意に低い、あるいは母子手帳の成長曲線で伸びが低下している ()
- * 寝る時間や起きる時間のリズムが一定でなかったり食事にもうがある (○)
- * 過食や拒食などの食行動の問題がある (○) **自飯も食べない**
- * 激しい夜泣きがある (✓)
- * 表情が乏しい、もしくは笑顔が少ない (✓)
- * 視線を合わせない、もしくは大人が笑いかけても反応が少ない (✓)
- * 新しい場面になかなか慣れない (○)
- * 壁や床に頭を打ちつける (✓)
- * 同月齢の子どもに比べて行動が著しく少ないか行動が止まってしまうことが多い (✓)
- * 泣き出すと止まらない、あるいは一度機嫌が悪くなるとなかなか戻らない (✓)
- * 気に入らないとすぐ激しいかんしゃくを起こす (✓)
- * 動きが激しくしよちゅう怪我をする (✓)
- * 人が近づいたり、肌に触れたりするとびっことする・もしくは拒否する (✓)
- * やや大きい音やその他の特定の刺激にびっくりしたりボーとするところがある (✓)
- * 同月齢の子どもに比べて目的のない動きが多く、落ち着きがない (✓)
- * 怖い事があっても大人に助けを求めないで一人で固まる事が多い (✓)
- * 職員に対して攻撃的である (△)
- * 他の子どもに対して怒りや攻撃性が強い (△) **物を投げ**
- * 行動パターンが突然手元なく変わる傾向が強かったり良い時と悪い時の差が非常に激しい (✓)
- * 特定の大人と深く繋がった関係が築けない (✓)
- * 他の子どもと関われない (✓)
- * 誰にでもべたべたする ()
- * その他特記事項 ()

(保護者との関係)

- * 保護者を特別な人と認識していない (保護者がきても気づかなかつたり喜ばずに拒絶する) (✓)
- * 保護者を見ると怯える、もしくは拒否的な行動 (近づくと避ける) をとる (✓)
- * 保護者の顔色を伺う (✓)
- * 保護者といくと非常に不安定に見える、もしくはどう行動してよいかわからない態度にでる (✓)
- * その他、保護者との関わりで気になる行動

| | |
|-----|-----|
| 園長印 | 担当印 |
| | |

5-3

行動観察 (入所1週間内) チェックリスト H27年 5月24日
乳幼児用虐待チェック

氏名 _____ 担当者 _____

- * 身長・体重が有意に低い、あるいは母子手帳の成長曲線で伸びが低下している (○) **体重**
- * 寝る時間や起きる時間のリズムが一定でなかったり食事にもうがある (×)
- * 過食や拒食などの食行動の問題がある (△) **小食も食べる、拒食**
- * 激しい夜泣きがある (×)
- * 表情が乏しい、もしくは笑顔が少ない (×)
- * 視線を合わせない、もしくは大人が笑いかけても反応が少ない (×)
- * 新しい場面になかなか慣れない (×)
- * 壁や床に頭を打ちつける (×)
- * 同月齢の子どもに比べて行動が著しく少ないか行動が止まってしまうことが多い (×)
- * 泣き出すと止まらない、あるいは一度機嫌が悪くなるとなかなか戻らない (×)
- * 気に入らないとすぐ激しいかんしゃくを起こす (×)
- * 動きが激しくしよちゅう怪我をする (×)
- * 人が近づいたり、肌に触れたりするとびっことする・もしくは拒否する (×)
- * やや大きい音やその他の特定の刺激にびっくりしたりボーとするところがある (×)
- * 同月齢の子どもに比べて目的のない動きが多く、落ち着きがない (×)
- * 怖い事があっても大人に助けを求めないで一人で固まる事が多い (×)
- * 職員に対して攻撃的である (△) **時々職員に怒る**
- * 他の子どもに対して怒りや攻撃性が強い (×) **(お膳前にて)**
- * 行動パターンが突然手元なく変わる傾向が強かったり良い時と悪い時の差が非常に激しい (×)
- * 特定の大人と深く繋がった関係が築けない (×)
- * 他の子どもと関われない (×)
- * 誰にでもべたべたする (×)
- * その他特記事項 ()

(保護者との関係)

- * 保護者を特別な人と認識していない (保護者がきても気づかなかつたり喜ばずに拒絶する) (×) **5/24 父と**
- * 保護者を見ると怯える、もしくは拒否的な行動 (近づくと避ける) をとる (×) **父に抱かれない、お膳前**
- * 保護者の顔色を伺う (×)
- * 保護者といくと非常に不安定に見える、もしくはどう行動してよいかわからない態度にでる (×)
- * その他、保護者との関わりで気になる行動

| | |
|-----|-----|
| 園長印 | 担当印 |
| | |

2) アセスメント（自由記述）

| | |
|--|----------------------------|
| フォーマット名 | 入所児行動チェック表（入所当日，2週間後，1ヶ月後） |
| 乳児院名 | 済生会宇都宮乳児院 |
| <p>ポイント：形式，育成</p> <p>入所当日から2週間後，また1ヶ月後と子どもの変化が見やすい書式である。項目立てもされており，見落としが防げる。記述するところのスペースが多すぎず，無理なく出来ると思われる。記入要領もついており，どんなところに着目して観察したらよいかわかりやすく，初任者も取り組みやすい。</p> | |

【入所児 行動チェック表】記入例

◆ この用紙は家庭の影響をチェックする用紙です。参考にしてください ◆

- ◆ 気になる行動のみ記入してください。
- ◆ 空欄でもOKです。
- ◆ 特に気になる行動があれば1ヶ月で終了してください。

※ 始めに日付を入れておくといくいです。

| | 入所当日の様子（ / / ） | 2週間後の様子（ / / ） | 1か月後の様子（ / / ） |
|---------|---|--|--|
| 食事 | <ul style="list-style-type: none"> ・がつがつよく食べる。 ⇒ あまり食べ物が与えられていなかった可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・食の量や食べ方、好きな物、嫌いな物な | <ul style="list-style-type: none"> ・食欲落ちる。 |
| お風呂 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所時間が遅く入らなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・激しく泣いて嫌がる。 ⇒ 入浴時に虐待的な体験をしている可能性 ⇒ 発達障害の疑いがあり感覚の課題がある可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・陰部を洗うと過剰に嫌がる。 ⇒ 性的虐待の可能性 |
| 睡眠 | <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか寝付けず24時就寝 ・泣かずにすぐに寝付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜醒かえる回数減る ・激しい夜泣きをする ⇒ 寝ている間に場所が変わる、音がなくなるなど安心して眠れない体験をしている可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・激しく泣いたり、陰部を洗う時に嫌がるなど行動を記録（肌荒れ、傷アザ、虫歯など身体的な特徴は別紙記載） |
| 泣き | <ul style="list-style-type: none"> ・入所後、1時間以上激しく泣く。 ・全く泣かない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・抱っこから降りすと泣きだす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で泣くか、また泣き方など |
| 運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・歩行できない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・9/7歩行できるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・歩行安定してくる。 ⇒ 歩行が遅まないうような扱い環境で生活させられていた可能性 |
| 集団生活の適応 | <ul style="list-style-type: none"> ・就寝してから入所で確認できず | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の後追いをして激しく泣く ⇒ 安定したま音が聞けていない | |
| 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・発語聞かれず | <ul style="list-style-type: none"> ・単語数語は出るがママとは言わない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2語文も出てきた。 |
| 対人関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・対人や力関係がしやすいので気にかけて見てく | <ul style="list-style-type: none"> ・大人のお手伝いが好き。 ・べったり甘えるのが苦手 ⇒ 大人の声色や匂いなどがうような生活を送っていた可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分よりも小さい子を突き飛ばしたり、叩く。 ⇒ 大人から力で抑えつけられたり、身体的虐待を受けていた可能性 |
| 家族との対面 | <ul style="list-style-type: none"> 入所時、泣かずに母親と別れる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・面会の迎えに行くと泣きだすが父母の前ではいい子 ⇒ 本心によって父母は怖い存在と感じている可能性 |

<家庭の影響が疑われるエピソード> ※日付も記入

9/4 お片付けをさせるといち早く片付けをする。⇒ 厳しくしつけられていた可能性
9/6 職員が手を上げた時に顔をそむけ頭を手で覆った。⇒ 自虐で叩かれていた可能性

<その他の気になる様子> ※日付も記入

9/11 庭から部屋に入る時に切り替えができませんしばらく泣いていた。

3) アセスメント (心理職)

| | |
|--|------------------|
| フォーマット名 | 入所・一時保護時心理アセスメント |
| 乳児院名 | 真生乳児院 |
| <p>ポイント：形式</p> <p>入所早期で心理的側面に特化したアセスメント表は珍しい。様々な課題を抱えた子どもの入所が増えている中、入所早期から子どもの心理的側面のアセスメントは重要である。○をすればいい書式になっており記入しやすい。(他)で記入欄もあり、項目で把握しきれない面は自由記述にするなど柔軟性もある。</p> | |

真生乳児院
 記入日：平成 X年 8月 ●日

ジェノグラムは緊急一時保護時は不明な点が多いため、記入時に確認できている事柄のみ記入

(入所・一時保護) 時 心理アセスメント
 X年8月 X年6月

| | | | |
|-----|-----|---------|--------------|
| 30代 | 30代 | | |
| ○ | | 氏名 | *** 生年月日 1:6 |
| | | 養育者等 | 父・母 (***) |
| | | 担当CW | ***CW |
| | | 受け入れ看護師 | ***NS |
| | | クラス担当職員 | いちごクラス A 保育士 |

初めて受け入れた時の様子・状況が以降のアタッチメントや対応に大きく関わってくる場合があるため必須

| | |
|---|---|
| | <p><input checked="" type="checkbox"/> 虐待 (身体、心理、性的、<u>ネグレクト</u>) — 重度・中度・軽度</p> <p><input type="checkbox"/> 家族問題 (夫婦不和、夫婦間暴力、別居、家出、未婚、離婚、内縁、)</p> <p><input type="checkbox"/> 経済問題 (借金、生活苦、失業、転職、計画性欠如)</p> <p><input type="checkbox"/> 生活環境 (劣悪な住居環境、安全確保への配慮なし、事故防止不足)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 精神的問題 (<u>うつ症状</u>) 通院できない、服薬できていない、疑いがあるが通院歴なし)</p> <p><input type="checkbox"/> 家事・育児能力 (送迎できない、障害のための能力低下)</p> |
| 入所理由 | 低身長、体重増加不良、発育不全、不衛生、発達障害、身体障害、疾病、皮膚疾患 (他) |
| 0歳児の状態や生活習慣に関する記載が少ないため「その他」に疳積や座位、過食傾向といった事柄を自由記述で追加 | |
| 身体状態 | |
| 子どもの様子 | <p>精神状態 表情が乏しい、視線が合いにくい、言葉の遅れ、大人と関わろうとしない、大人に対して愛想・外面がいい、べたべたしてくる、怖がって自由に遊ばない、ぼーっとしている、凍りついた目、攻撃的、自傷、かんしゃく、<u>過度の緊張</u>、<u>過度の警戒</u>、<u>落着き</u>がない、生き生きとしている、<u>夜啼き</u>がひどい (他) <u>夜間覚醒</u> (黙って起きる、廊下に出る)</p> <p>遊び 型はめ、お絵かきボード、他児の遊びを見る</p> <p>子ども同士の関係 3歳女児のマネをしようとしたり、かまってもらおうと一緒に変顔をしたりすること。</p> <p>養育者との関係 クラス担当職員とグループ担当職員とそれ以外と認識。実習生など自ら抱っこを求めにいくことあり。</p> <p>発達状態 <u>正常域</u> 軽度疑い、中度、重度疑い ———— 言語の遅れ、理解不足、(他)</p> |
| 養育者の様子 | <p>精神状態 表情が乏しい、視線が合いにくい、ぼーっとしている、自傷、かんしゃく、過度の緊張・不安、過度の警戒、依存的、攻撃的、妄想的、被害的、悲観的、意欲低下、抑制不能、衝動的、未熟、<u>共感性欠如</u>、(他)</p> <p>子どもとの関係 子ども嫌い、世話を嫌がる、疎ましい、一緒にいるとイライラする、子どもをけなす・禁止的、出産の後悔、支配的・干渉的、暴力・威圧的、無関心・無反応、欠点や失敗への批判または極端な不安、期待過剰 (他) <u>几帳面</u>、<u>放任</u></p> <p>面会・外泊等 一時保護中より、父母らとの面会・外泊あり→父母への後追いなし。</p> <p>健康状態 すり傷、爪はがれなど多い。肌荒れしやすい</p> |
| 総合所見 | <p>表情の乏しさ、発声が少なく緊張した態度で、周囲の状況をじっと見つめうかがっている態度が特徴的。一方で動きは多く、無防備に動いたり、大人を振り返ってみようなどはやや少なく、元来の発達の特性も懸念される。人見知りも示さない。</p> <p>アタッチメントは不安定でその場その場のしぎやすいが、ある程度の共有、共感、心地よさは積み重ねている印象。</p> <p>アタッチメント、発達の特性、双方へのアプローチが必要。</p> |

心理：**

2-3. 入所中

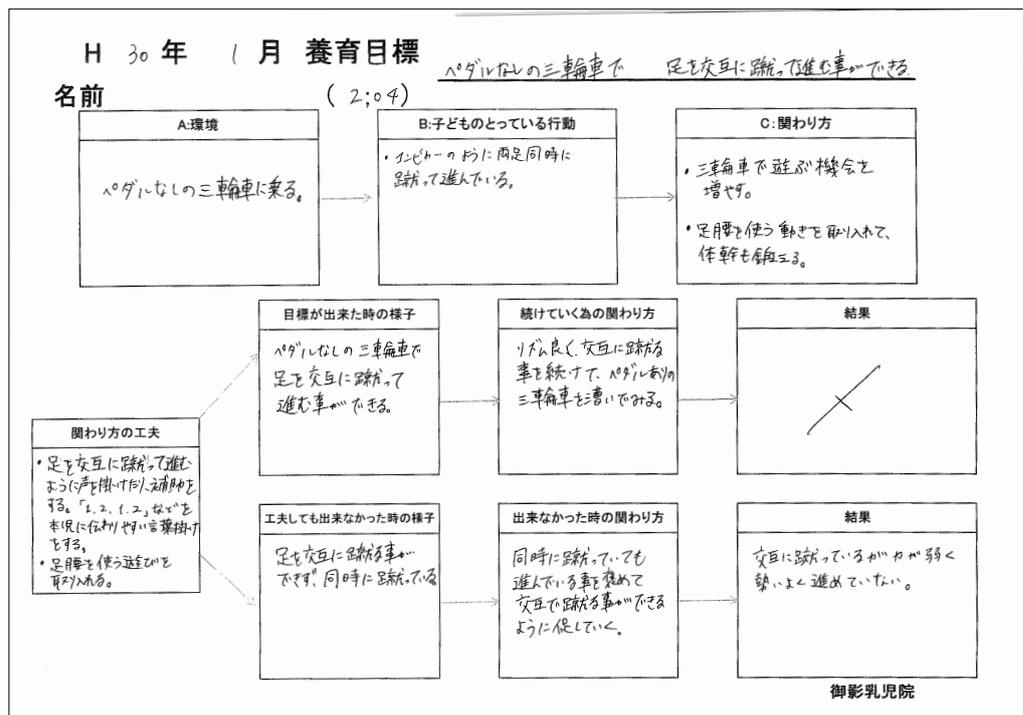
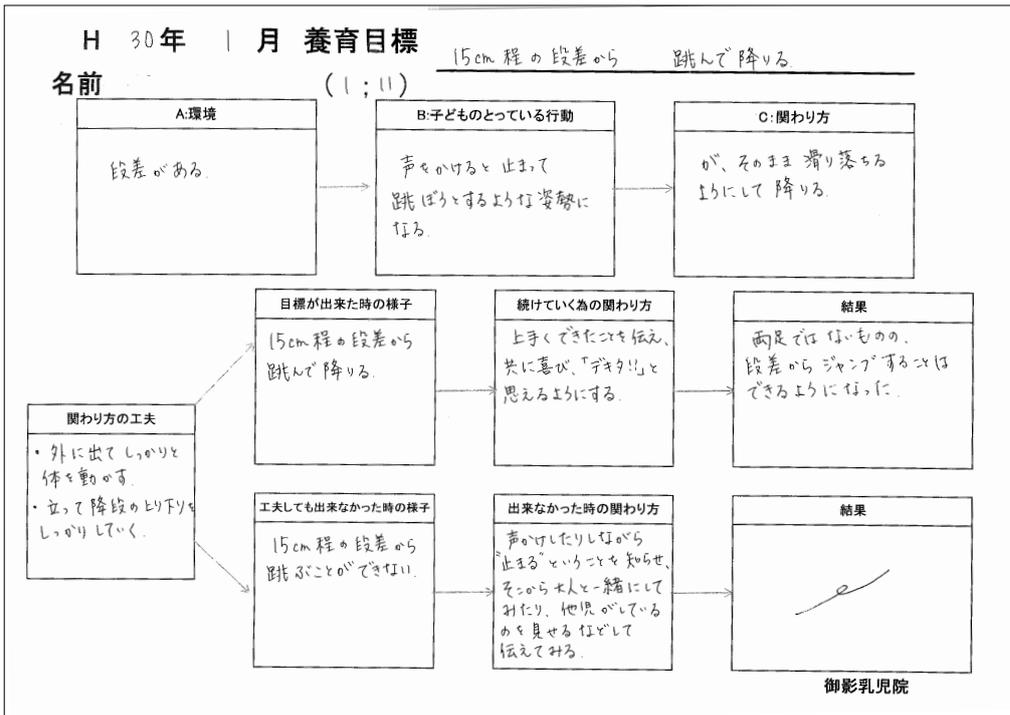
1) 日々の記録

| | |
|--|---------------|
| フォーマット名 | 児童観察記録 |
| 乳児院名 | 麦の穂乳幼児ホームかがやき |
| <p>ポイント：形式，育成 見出し欄があり，後から見やすいし，整理もしやすい。コメントを入れるスペースが確保されており，所感やアセスメントも書くことになり，記録を書くことにより専門性が日ごろから高められる。 特に，新任職員育成の際には，見出しの項目ごとに子どもの観察を意識することができるため，視点の学習に役立つと思われる。</p> | |

| 児童観察記録 | | | |
|--------------------------------|-----------------|---|-----|
| 児童氏名 ○○ ○○ | | | |
| 15 領域 担当が後から記載する。() 内は自由にコメント | | | |
| 日にち | 見出し | 内 容 | 記録者 |
| | 人間関係 | ・会館へ。出迎えてくれた会館職員に人見知りして泣く。 担当保育者がそばにいと落ち着く。 | |
| | | () コメントを書けるように1行空けておく | |
| | 健 康 | ・おすわりが安定する。座ったままおもちゃを手にとって遊ぶ。 ⇒転倒の危険がないよう見守る | |
| | 健 康 (模 倣) | ・カーテンの向こうに隠れて「ばあ！」と保育者が顔を出すと、まねして カーテンの向こう側へ行き、同じように「ばあ」と顔を出して笑う。 ⇒おとなとやり取り遊びが楽しめる。 | |
| | 健 康 (つかまり立ち) | ・ラックにつかまって立ち上がろうとする。お尻が浮くが、まだ立つことは できない。 ⇒もう少しつかまり立ちができそう。つかまり立ちがたかさんでできるよう 安全な保育環境をつくる⇒担当がコメントをつける。 | ○○ |
| | 言 葉 | ・保育者の口の動きを真似て、「アンパン」という。口の動きをじっと見てお りバクバクとまねて動かす。 | |
| | 環 境 | ・目の前で布製サッカーボールを転がすと、目で追いハイハイで追いかけ、 つかまえて笑う。 ⇒遊びに誘うと積極的に関わっていきこうとする。いろんな素材のおもちゃに 触れていきたい。 | |
| | 表 現 | ・他児の持っているおもちゃが欲しいが、直接働きかけずに保育者に向かい 泣いて訴え表現する。 ⇒「かしてって言ってみようか？」と言葉を添えるなど、やりとりについ てくり返し、わかりやすく伝えていきたい。保育者が仲介し、コミュニケー ションをとっていく。 | ○○ |
| | 言 葉 | ・両手を広げて抱っこ要求。「だっこって言うんだよ」と言葉をかけると 「たったっ」と発語。 ⇒やりとりの中で、言葉と行動がつながっていく。優しくわかりやすい言葉 かけを大切にしていきたい。 | |
| | 環 境 | ・たんぼの綿毛をフーと吹いてみせると小さな綿毛が飛んでいく様子を じっと目で追っていた ⇒とても気に入った様子。保育者の表情ややりとりが楽しかったのでは。 | |
| | 環 境 | ・葉っぱを手渡すと、ためらわず口の中へいれようとする。 ⇒なんでも口にいれるため注意が必要。 | |

3) アセスメント (具体的)

| | |
|---|-----------|
| フォーマット名 | (月別) 養育目標 |
| 乳児院名 | 御影乳児院 |
| <p>ポイント：形式，システム 行動や動作等具体的な焦点の当て方があり，初任者でも記入しやすい。過程と結果を分析でき，次にもつなげやすい。 子どもの行動と職員の関わり両方の事を考えるようなフォーマットになっている。</p> | |



4) アセスメントとカンファレンスのシステム

| | |
|---|------------|
| フォーマット名 | 入所時の子どもの様子 |
| 乳児院名 | うえだみなみ乳児院 |
| <p>ポイント：形式，システム</p> <p>アセスメントガイドの「入所時の子どもの様子」シートを用い，入所後すぐと入所約1週間後にカンファレンスを行い，入所早期に子どものアセスメントを行い，当面の支援方針を立てている。子どもの状態像を簡潔にシートにまとめており，行政など関係機関にも提供しやすいのではないかと。その後はアセスメントガイドの生育歴や家族の状況のフォーマット，また日々の記録から抜粋したものを資料としてまとめ，約3か月に1回カンファレンスを行い，検討内容を書面にまとめている。入所後すぐから時期を追ってカンファレンスがシステム化されており，子どもや家族の変化を継続的に捉え，アセスメントや方針の見直しを行うことができるようになってきている。</p> | |

入所時の子どもの様子①

「入所時の子どもの様子①」
は入所前の情報

| | | | |
|--|---|---|----------------------------------|
| 入所日時 | H○年○月○日(水) ○時 ○分 | 児相等 | ○○児相 ○○福祉司 |
| <p><入所理由>母は体調不良や夜の仕事等の理由で、小諸の実家祖母に本児を預けていたが、祖母は知的に低い為(手帳取得)本児の養育に不安と危険を感じる事から、一時保護となる。母は6人兄弟で、全員施設育ちであり母は虐待も受けてきた経過がある。最後は渡多学園に入所している。母は本児への虐待はないので「養護・環境」とするか、「虐待」(ネグレクト)にするか検討中。兄がいて、離婚後父方に引き取られている。</p> | | | |
| 入所児氏名 | ○○ | 性別 | 女 入所年齢(月齢) 1歳6ヵ月 |
| 保護者氏名 | ○○(○歳) | 続柄 | 母 入所児生年月日 H○.○.○生 |
| 所在地 | | | |
| | 項目 | 内容 | |
| 身体的側面 | 虐待や事故等による後遺症 | 左手に火傷(2ヶ月前)祖母宅で起きた事故。 | |
| | 生来の疾患・障害 | | |
| | 健康状態の気になる点 | アトピー性皮膚炎：ヒルロイドと赤みのひどい時用の軟膏 | |
| | 発育状況や体調 | | |
| | その他 | 一歳半健診(○月○日)に母がいく予定 | |
| 心理的側面 | 生活リズムと基本的生活習慣 | 食事 | 食物アレルギーはなし。肉が噛み切れず飲み込めない。好き嫌いなし。 |
| | | 睡眠 | 病気の時以外は、良眠。 |
| | | 排泄 | まだ教えることはなく、オムツ使用 |
| | | 入浴 | 顔にお湯がかかるのを嫌がるが、上からかけていた。 |
| | | その他 | |
| | 認知、言語発達 | 多少遅い。 | |
| | 情緒発達の様子 | 穏やか | |
| 関係性の側面 | 恐怖や不安など | 母と離れた不安からか、職員が外に出る所を見るとおいて行かれると思うのか泣いている。 | |
| | 自己感覚、自己意識 | | |
| | 嗜好、魅力、居場所 | 殆ど、母方祖母の所に預けられていた。 | |
| | その他 | 母は体調不良であったり、夜の仕事が多く心配がありながらも祖母に預けてしまっていた。 | |
| 職員との関係 | 初めての職員には、抵抗を示すが、すぐに慣れて甘えてくる。 | | |
| 家族との関係 | 母・祖母の面会あり。(祖母のみは禁止)外出も許可。今後、家賃の安い一軒家(古民家)を借りて本児と住む予定。 | | |
| 子ども同士の関係 | 関係性は特に問題なく、玩具で自由に遊んでいる | | |
| その他の人との関係 | 人懐っこい。 | | |

第1回 カンファレンス結果

入所児氏名：○○

(1) 15分見回り ○月 ○日 () まで

(2) 観察室対応 ○月 ○日 () ~ 5日間程度

(3) 専門分野から

<養育>

- ・観察室の対応は、○日まで○日～夜室での対応無理な時観察室を使用する。
- ・15分見回りも○日まで○日～30分見回り
- ・まだ不安定で泣く事もあるので不安な時は、受け止めてあげる
- ・安心して過ごせる環境で養育をしていく。

<看護>

- ・身長75cm 体重9.4kg 身長は成長曲線の下ギリギリ。今のところ措置にはならないようなので、退所後に乳幼児健診をきちんと受診するよう繋げて下さい。
- ・予防接種も、年齢的に対象外になってしまったワクチンもあるので、入所中に進められるか確認してください。自費になってしまうものもあります。
- ・アトピー性皮膚炎と診断されているようですが、皮膚の症状はそれほどひどくはありませんので、他児と同様、入浴後に保湿剤の塗布をお願いします。必要に応じてヒロコイド等弱いステロイド剤使用して様子見ます。

<家庭支援>

- ・母は面会と外出を許可。祖母は面会のみ許可。祖母一人での面会時は、必ず、目の届く場所をお願いします。
- ・家庭復帰のお子さんです。母が受け入れ環境が整うまでの入所となると思います。その情報が入り次第お伝えします。
- ・母は外出が許可されていますので、健診・受診等は母に声を掛けて行きたいと思えます。予防接種はどうしていくか、児相に確認していきます。

<栄養課>

- ・アレルギーなし。普通食ですが、肉、魚等固いと思われるものは一口大にしてしっかり見守りをお願いします。

(4) 次回開催 ○月 ○日 ()

| | | | |
|---|----------------------|--|--|
| | | 「入所時の子どもの様子②」は 入所してから1週間程度の情報 | |
| 入所時の子どもの様子② | | | |
| 入所日時 | ○年 ○月 ○日 () 時○分 | 児相等 | ○○児相 ○○福祉司 |
| <入所経過> 長期の一時保護になり、予定では◆月までとなっている。母と外出や外泊が入り親子交流を図っている。本児は乳児院に慣れ養育者に甘えてたくさん抱っこをして貰っている。 | | | |
| 入所児氏名 | ○○ | 性別 | 女 入所年齢(月齢) 1歳6ヶ月 |
| 保護者氏名 | ○○ | 続柄 | 母 入所児生年月日 |
| | 項目 | 内容 | |
| 身体的側面 | 虐待や事故等による後遺症 | 左手に火傷(2ヶ月前)祖母宅で起きた事故。 | |
| | 生来の疾患・障害 | | |
| | 健康状態の気になる点 | アトピー性皮膚炎：ヒルロイドと赤みのひどい時用の軟膏 | |
| | 発育状況や体調 | | |
| その他 | ○月○日 母と1歳6ヶ月健診に行く予定。 | | |
| 心理的側面 | 生活リズムと基本的生活習慣 | 食事 | 幼児食提供で残すことなく食べている。お皿を持ってスプーンなど使用して食べられている。あまり噛まずに食べてしまう為大きさを調節して食べている。 |
| | | 睡眠 | 時々泣いて起きるがトントンするとすぐに再眠している。 |
| | | 排泄 | オムツパンツMサイズ使用。排便毎日ある。 |
| | | 入浴 | 入浴になると大泣きする。顔にお湯が掛かると余計に泣いて騒いでいる。 |
| | | 清潔 | なし |
| | 認知、言語発達 | 話している会話は理解しており、自分が話したい時だけ発語が聞かれる。 | |
| | 情緒発達の様子 | 安定している。 | |
| | 恐怖や不安など | なし。 | |
| | 自己感覚、自己意識 | 抱っこして欲しい時や甘えたい時など自己表現して訴えてくる。 | |
| | 嗜好、魅力、居場所 | ソファの上で遊ぶことが好きで、昔といると落ち着いて一緒に遊ぶ事が出来ている。 | |
| その他 | なし。 | | |
| 関係性の側面 | 職員との関係 | たくさん甘え抱っこをして貰ったりしている。院長に甘える事が多い為本児の寂しい気持ちが満たされるなら無理に離さず一緒に過ごして貰うようにする。 | |
| | 家族との関係 | 母と外出や外泊に出掛け、母が来ると嬉しそうに走って行った。帰りも後追いをしずっと抱っこをして貰い離れずにいる。 | |
| | 子ども同士の関係 | 一緒に遊んだり、真似をして遊んでいる。 | |
| | その他の人との関係 | 始めは距離を取り様子を伺っているが、少し経つと自分から抱っこをして貰いに行っている。 | |

第2回 カンファレンス結果

入所児氏名：○○ ○○

専門分野

- ・養育
 - ・気持ちを言葉にして言えるようにする。「いただきます」や「ごめんね」などの挨拶が言えない為言えるようその都度教えていく。
 - ・まだ本児が何に興味があるのかわからない為、遊びながら見つけて成長につなげていけるようにしていきたい。音に反応して踊ったりしているのを、曲に合わせて体を動かしたり、歌を口ずさめるようにし言語の発達を促していきたい。
 - ・入浴時まだ泣いてしまうが、以前よりは最初の時だけで泣かなくなって来ている。このまま対応を変えず顔にお湯が掛かるのを慣れさせていきたい。
 - ・院長に甘える事が多い為本児の寂しい気持ちが満たされるなら無理に離さず一緒に過ごして貰うようにする。満足すれば自分から気持ちを切り替えて遊び始めるので、気持ちが満たされるまで少し大目に見てもらいたい。
- ・看護
 - ・アトピー性皮膚炎と診断されていますが、それほどひどくはありません。やや乾燥肌なので、入浴後の保湿を今後も継続して頂ければ良いと思います。程度により弱いステロイド軟膏使用します。
 - ・来月乳幼児健診がありますので、身長に指摘を受けたら指示に従って経過追っていただきます。
 - ・予防接種が滞っていますが、児相からの指示があるまで保留をお願いします。
- ・家庭支援
 - ・○日～○日まで、帰省となります、その間は一時保護が解除となります。書類が送られてきましたが、書類上は虐待になっていませんでした。
 - ・帰省の際、母のアパートで過ごすのか、祖母の家で過ごすのか確認してください。祖母の所に行くようであれば、危険のないように伝えて下さい。
 - ・一時保護にしては異例ですが、外出の許可も出ているので、健診等は、母を誘って行きたいと思っています。
 - ・年明けには、予防接種をどうしていくか児童相談所と検討したいと思います。
 - また情報が入り次第、お伝えしていきます
- ・栄養課
 - ・口いっぱい食べ物を入れてしまうので詰まらせやすいものは小さ目にして飲み込みの確認をお願いします。
 - ・野菜が苦手なようです、食べられる野菜献立を知り工夫をしていきたいと思っています。
- ・院長
 - ・一時保護で入所してきた子ども達は、自分だけの大人を探している。その子ども達が安心して甘える事ができる人になって貰いたい。
 - ・担当と愛着形成を取らないといけないと思慮することがあったが、担当の意向を聞き本児の気持ちが満たされるまで抱っこをして甘えさせるようにする。
 - ・ここは保育園みたいに全体を見るのではなく、家庭と同じように個々での関わりが大事になるのでここで見て行って貰いたい。

(4) 次回開催 3ヶ月後

| |
|-----|
| 職員印 |
| |

5) アセスメントの振り返り

| | |
|---|----------------|
| フォーマット名 | 前回のアセスメントの振り返り |
| 乳児院名 | ほだか |
| <p>ポイント：形式，システム，内容</p> <p>アセスメントガイドを活用し，子どもや家族の情報をまとめた資料をもとにカンファレンスを実施しており，その中の一部を紹介する。前回のアセスメントの振り返りができるようにフォーマットに手が加えられている。アセスメントのまとめを実施してから3か月後に振り返りを行っており，アセスメントやカンファレンスが単発で終わらず子どもの成長や職員の関わりを継続的に追うことができる。</p> | |

| 子ども・家族の課題の整理 | | | | |
|---------------------|--|--|---------------------------------------|--|
| 施設長 | 養育主任 | FSW | 心理 | エントリナー |
| | | | | |
| 【ユニット：うさぎ 子どもの名前：A】 | | | | |
| 記入日：X+2年 8月 日 | | | | |
| 課題 | 背景要因の検討 | 方針 | 具体的な手立て・配慮 | |
| 身体的側面 | カウプ指数が標準より20%高く、太り気味である。 | 外泊中に不摂生な食事をしている可能性がある。 | 適切な食事と適度な運動を行う。 | 家族との連携を図り、食生活を整えていく。 外遊びや散歩など、運動を取り入れる。よく噛んで食べるように声かけをしていく。 一口量を説明していく。 |
| 心理的側面 | 嘔み付きや甘え泣きなどが多くになっている。 | 長期間継続してきた外泊が中断し、動揺が高い。 | 本児がほだかで安心して生活できるようにする。 | 個別を積極的に行い、職員との愛着形成に努める。 可能な範囲で保護者との関わりを持てるように働きかける。 |
| 社会的側面 | 嘔み付きや叩くことで要求を伝えることがある。 | 言語能力が未熟である。 | 言葉で要求を伝えることができるようになる。 | 本児の気持ちややりたかったことを大人が代弁していくことで、本児のコミュニケーションへの意欲を伸ばしていく。 本児との会話を意識し、発語が増えるようにする。 |
| 家族について | 母親のうつ病が悪化し、外泊が中止となっている。母親と父親・父方家系の関係が悪化している。父親の今後の意向が不明瞭である。 | 外泊日数が長くなったことと、引取りが近づいたことにより、母親の不安感が増大した。 | 長期的な視野に立ち、短い外泊を継続していく。 家族の意向を確認する。 | 母親の負担を少なくするために、1泊2日の外泊を提案し、継続的に外泊を行えるようにする。 CWに父親との面談を依頼し、父親の気持ちや意向を確認する。 |
| 次回見直し時期： X+2年 11月 | | | | |

| 前回のアセスメントの振り返り | | | | |
|----------------------|---|---|---|--|
| 施設長 | 養育主任 | FSW | 心理 | エントリナー |
| | | | | |
| 【ユニット：うさぎ 子どもの名前：A】 | | | | |
| 前回のアセスメント日：X+2年 8月 日 | | | | |
| 振り返り記入日：X+2年 11月 日 | | | | |
| | 前回の課題と方針 | 実際行った手立て・対応 | 子どもへの影響・変化 | 今後の方針 |
| 身体的側面 | 太り気味であり、適切な運動と食事を心がける。 | 炭水化物のおかわりを控え、おかわりは野菜やスープを食べる。 母親のうつ病が悪化のため、外泊に行くことが少なくなった。 | カウプ指数が平均に戻る。 | 外での身体を使った遊びを続ける。 適切な量の食事を続ける。 保護者と食生活の支援を連携して行う。 ほだかでの食生活を伝え、外出外泊時にも食生活に意識してもらう。 |
| 心理的側面 | 嘔み付きや甘え泣きが多い為、ほだかで安定した生活を送れるようにする。 | 個別外出を行う。 保護者の負担にならない範囲で面会外出を行う。 | 制止された際、泣いて要求を通そうとすることもあるが、嘔み付きは減少している様子である。 | 職員との個別の関わりを継続し、ほだかでの生活に安心感を持てるようにしていく。 保護者との外出や外泊を細く長く続けていくことで、本児も家族との関わりに見通しと安心感をもてるようにする。 |
| 社会的側面 | 嘔み付いたり叩いたりすることで要求を伝えようとするため、言葉によるコミュニケーションが出来るように支援する。 | 嘔み付いた際は制止し、職員は本児の気持ちを代弁する。そして、言葉での要求の出し方を教える。 | まだ手が出たり、嘔み付くこともあるが、「かして」「やめて」など、言葉で要求を伝えることができる。 3語文が話せるようになっていく。 | 嘔んだり叩いたりした際は、職員は適切な要求の出し方を教え、本児が言葉で伝えられるようにしていく。 職員は本児とのコミュニケーションを大切に、発語を増やしていく。 |
| 家族について | 母親のうつ病が悪化し、外泊が中止となっている。そのため、母親の負担を少なくするために、1泊2日の外泊を行っている。 | 母親主導で面会や外出を実施する。10月に入り、1泊2日の外泊が再開となる。 | 外泊中断時は父母に関する発言は一切無かったが、面会再開後は「パパママ」「ママブーブ」など、父母に関する発言が増える。 外出、外泊帰院時は落ち着きがない。 | 母親に負担がかかり過ぎないよう、無らな短期間の外泊を継続していく。 外泊帰院後は、本児と個別の時間を取り、安心出来るように心がける。 応援会議や三者面談を行い、引きとりに向けた進め方や支援を考慮していく。 |

6) 心理職の記録

| | |
|---|---------|
| フォーマット名 | 心理支援計画票 |
| 乳児院名 | 大念仏乳児院 |
| <p>ポイント：形式</p> <p>心理士としてのかかわりを継続的に記録に残しており、子どもの変化も把握しやすいと感じる。個別のアセスメント、ケースカンファレンス等の記録として、備えておけると活用できる書式。</p> <p>〈保護者〉・〈本児〉の項目立てがあり、心理士が双方に対して家族全体を意識してアプローチできる形になっている。</p> <p>【退所前アセスメントシート】は乳児院での入所中の現状・その中での心配点や課題・今後のアフターフォローの具体的な方法が、身体的側面、心理的側面、関係性の側面といった項目ごとに記入する様式となっており、全体状況を把握しやすい。</p> | |

平成●年度 心理支援計画票(心理支援プログラム)

入所日：平成○年○月○日

| | | | | |
|---------------|---------------|-------------|----------|--------------------------|
| フリガナ 児童氏名 | ○×△□※*+- | 男 女 | 生年 月日 | 平成○年○月○日 |
| フリガナ 保護者氏名 | *※* △△△ / ※※※ | 続柄 (実父母) | 生年 月日 | 父:昭和○年○月○日 母:昭和○年○月○日 |

コンサルテーション記録 / 心理支援計画

| (実施日) [参加者] | 月 齢 | 現在の状態・課題・見立て | 支援方針・実施方法 |
|---|-----------|---|---|
| ケース会議 (5 / △) 担当: s yy k h o t | 1歳 7ヶ月 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障者用住宅当選し12月中に引越しまい。 ・月4回、3泊まで外泊を継続している。 <p><本児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気に入らないことがあると他児への噛みつき、頭突きがある。職員へも噛みつくことはあるが、加減している。思い通りにならないと泣く。外泊から戻ってきた際は特にひどい。 ・以前よりも言葉の理解が進んでいる。 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引越後の自宅に、できれば本児が外泊中に家庭訪問を行う。子の家庭での様子等 ・外泊の際は、玄関前にて車に乗ったまま子の受け渡しをしている為、心理士が会うことはなかなかできないが、会えた際には、声かけを行い、父母との関係構築に努める。 <p><本児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活観察を行い、発達の経過やどのような時にストレスを感じやすいかをみる。必要に応じて発達検査等を行う。 |
| ケース会議 (12 / △) 担当: s h o t | 2歳 2ヶ月 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月4回外泊を継続している。4泊5日の長期外泊を始めている。 ・母は外泊中、気になることがあれば自ら乳児院に電話してこられている。 <p><本児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が少しずつ増え、二語文が出てきている。 ・気に入らないことがあると、他児に噛みつきたり、つねたりする。外泊から戻ってきた時がとくに多い。 ・職員へは甘えるが、父母への後追いはない。 | <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外泊の際は、玄関前にて車に乗ったまま子の受け渡しをしている為、心理士が会うことはなかなかできないが、会えた際には、声かけを行い、父母との関係構築に努める。 <p><本児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活観察を行い、発達の経過やどのような時にストレスを感じやすいかをみる。 ・年明けに関係機関で話し合いを行う予定。来年度も引き続き入所していることになれば、セラピーの実施を検討する。 |
| 会議・コンサル (/) | 歳 ヶ月 | | |

退所日：平成 年 月 日 (引き取り / 措置変更)

退所前アセスメントシート(退所後支援記録シート)

施設名 _____ ×××乳児院 _____

| フリガナ 児童氏名 | ○×△□※*+- | 男 女 | 会議日 | ○年 ○月 ○日 |
|-----------------------|---|---|---|----------|
| 生年月日 | 平成 ○年 ○月 ○日 (3歳 3ヶ月) | 参加者 | yy, h, y, s, f, a | |
| 保護者氏名 | * * * * * | 続柄 | 父母 | 作成者 a |
| 退所先 | (定住引き取り)措置変更・その他 | 退所理由 | | |
| 児童相談所との協議内容 | 児相に心理判定と関係者協議を提案する。 | | | |
| 子 ども 本 人 に つ い て | | | | |
| | 乳児院での関わり・経過 | 現状での心配・課題 | アフターフォローの方法 | |
| 身体的側面 | 鼻汁・湿疹が多い。 左目内斜視・近視と乱視があるため眼鏡を着用。 バランスが悪く転倒しやすい。 | 乾燥すると耳切れを起こす。 頭や顔から転倒するので、怪我が多い。 | 乳児院での対応を家庭に引き継ぐ。 | |
| 生活リズムと基本的生活習慣 | トイレトレーニング中であり、おむつを着用。 スプーンを使い、お箸練習中 | | | |
| 心理的側面 | 思い通りにならないと、他児を噛む・叩く・つねる。落ち着きがなく、こだわりが強い。 他児との遊びにおいて、追いかけてこはできるが、ごっこ遊びなど高度な遊びはできない。 会話は成立するが、言葉が不明瞭なことが多い。 「またあとで」と「また今度」を使い分けて待てる。 | 保健センター・神経内科で自閉傾向と指摘されている。落ち着きがなく、発音が不明瞭でわかりにくい。 | 児相での検査後、具体的な対応・関わりを聞く。 | |
| 関係性の側面 | 父と母のことを認識しているが、父のことを話さなかったり、「嫌」や「怖い」と話したりすることがある。 | 父のことを怖がる傾向あり。 | 父に具体的に振り返ってもらう。 | |
| 家 庭 に つ い て | | | | |
| | 乳児院での関わり・経過 | 現状での心配・課題 | アフターフォローの方法 | |
| 保護者 続柄(実母) (実父) | 定期的に外泊しており、1ヵ月間の長期の外泊も実施。 | 家庭引き取り後の父のいないときの母の負担あり。 | 関係機関の適切な支援につなげる。 各種サービスは利用可能な状況となっている。 | |

退所後支援(アフターフォロー)方針まとめ

※基本的に『措置変更(家庭引き取り含む)』に向けてのプログラムに沿って進めるが、変更があるケースに対し記録する。

2-4. 家族支援

1) 家族への案内

| | |
|---|-------------------|
| フォーマット名 | 1日の流れ・自宅に準備が必要なもの |
| 乳児院名 | 麦の穂乳幼児ホームかがやき |
| <p>ポイント：形式、内容</p> <p>子どもに合わせて用意されており、保護者にとって具体的なイメージができるようになっている。文字数も多くなく、内容もシンプルで読みやすく、保護者にとっても助かる内容ではないかと思われる。子どもにとって生活のリズムが整うことがとても大切なことであるというメッセージが、自然な形で保護者に伝わるように考えられている。</p> | |

| お子さんの一日の生活の流れ（記載例） | | 子どもの月齢に合わせて記載する |
|--------------------|------------------------|--|
| 時間 | 日課 | 備考 |
| 6:00 | 起床・着替え・オムツ交換 検温 | |
| 7:00 | M200ml | ・朝のミルクは哺乳ビンで飲んでいます。 |
| 8:00 | 午前睡 オムツ交換 | ・午前睡を30分ほどとることで元氣よく活動でき、昼食をしっかり取ることができます。 |
| 9:30 | おやつ+M50ml | ・おやつはミルクはコップで飲んでいます。徐々に哺乳ビンからコップへ移行していきます。 |
| 10:00 | あそび | ・館内、体調が良ければ庭や園内にお散歩に出て遊びます。外に出る時は帽子をかぶって紫外線を守るようにしています。 |
| 11:00 | 水分補給・オムツ交換 昼食準備 | |
| 11:30 | 昼食+お茶 午睡 | ・声をかけてあげると、いただきますと、ごちそうさまのしぐさが上手にできます。 |
| 12:00 | お昼寝 | ・寝かしつけは、一緒にお布団に横になってとんとんと優しく体に触れたり、抱っこで肩に頭をつけるようにして眠りに誘うと安心して眠れます。 |
| 13:00 | | ・2時間ほどお昼寝をとります。 |
| 14:00 | オムツ交換 おやつ+お茶 あそび | |
| 16:00 | 水分補給・オムツ交換 | |
| 17:00 | 手洗い・夕食準備 夕食 | ・お風呂は大好きです。先に着替えやバスタオル、ミルクなど用意しておくとうれしく安心です。 |
| 18:00 | 検温 入浴 | |
| 19:00 | M100ml はみがき | ・カミカミ歯ブラシを持たせて慣れていけるようにしています。楽しく歯みがきできるよう、歌ったりしながら大人が仕上げ磨きをします。 |
| 20:00 | 就寝 | |
| 21:00 | | ・夜間1回ミルクを飲みます。(100ml) |

*朝起きた時・お風呂の前に検温
*一日のミルクトータル450ml目安です。 昼食・夕食 おかゆ60g + おかず2品

○お子さんの最近の様子・好きな遊び ⇒月齢・個性に合わせて記載する
・好きな遊び・指さしやしぐさに言葉添える関わり・絵本や玩具を準備することなど
・子どもの分かりやすい言葉かけ 寝ぐすりへの対応など
・食事やミルク、遊び食べの理解、頂きます等の挨拶をすることなど
・危険予測（誤飲・入浴やつかまり立ちの転倒・目を離さないこと）など

| <自宅に準備が必要なもの> | | |
|--------------------------------------|--|--|
| 用品 | 使用内容 | 備考 |
| チャイルドシート | 車に乗車するのに必需品です。 | |
| 子ども用の椅子 | 食事の時に必要となります。 | お家のテーブルにあわせて頂けるとよいと思います。 |
| 寝具（掛け・敷き布団・毛布・綿毛布・タオルケット） | 寝るときに必要です。夏はタオルケット、冬はハーフケットくらいの大きさの毛布や子ども用綿毛布を使用しています。 | お家の気候などに合わせて頂けるとよいと思います。あまり上に掛けすぎないようにしています。 |
| 食器類（茶碗・お椀・お皿・スプーン・フォーク） | 食事の時に必要です。プラスチック製のものでもよいと思いますが、陶器でも割れにくいものを選びたいと思います。 | 自分ですくいやすいように深めの器を使用しています。 |
| おんぶ（だっこ）ひも ベビーカー | 家事をする時や、外出時移動する時にあったと便利です。 | |
| 歯ブラシ | 子どもに持たせるものと、大人が仕上げ磨きをするものがあるとよいです。 | 子ども用はカミカミでき、持ち手が短いもの、仕上げ用はヘッドが小さめのものを使いやすいです。 |
| 衣類（服・肌着・靴下・帽子・レギンス・スパッツ・パジャマ・エプロンなど） | 現在のサイズは、90cmを着用しています。肌着は90cm、靴下は12~15cm位を使用しています。靴は13cmを履いています。 | 冬は足が冷たくなりやすいため、状況により、レギンスやレッグウォーマーを着用しています。 |
| オムツ・おしりふき | オムツは現在Lサイズのテープタイプを使用しています。トイレトレーニングで自宅に必要なものとして、子ども用便座やおまるがあります。 | トイレに誘っていただける時は、座らせて興味を持って促しています。 |
| 入浴用品（ボディソープ・シャンプー・ガーゼなど） | 入浴にて使用します。石鹸は泡タイプのものを使用し、手で優しく洗っています。まだ髪は少ないので、全身洗える物を使用しています。 | 入浴玩具もあると楽しくお風呂に入れると思います。コップやお玉・ジョウロなどままごとの延長のものを使用しています。 |
| 衛生用品（つめきり・耳かき・綿棒など）保湿剤 | 爪切りはまだつめが柔らかいので、はさみタイプが安心です。 | 保湿剤は市販のベビーローションやワセリンでも大丈夫です。 |
| 玩具・絵本 | 成長を見ながら、必要な物は変わります。 | 今は歌や手遊びなども好きなので、歌ってあげたり一緒に遊んでもらえることを楽しんでいます。 |
| 食事・おやつ | おやつは市販のベビーおやつ・果物を食べています。食事もあるべく薄味のもの食べています。 | アメ・チョコレート・ガムなどはまだ与えていません。そばはまだ与えていません。 |
| (その他) | | |

※今後に向けて、必要となる物をあげてみました。参考にさせていただき、そろえていただければと思います。わからないことなどあれば、おたずねください。

2) 面会時に抑えておくポイント

| | |
|--|--------|
| フォーマット名 | 面会チェック |
| 乳児院名 | ななお乳児院 |
| <p>ポイント：形式，内容</p> <p>面会時の観察ポイントが明記してあるため，観察の視点を意識することができる。初任者にもわかりやすく，面会チェックの漏れを防ぐことができる。面会対応者にとって共通の指針にもなるため，親子関係の関係性のアセスメントにも役立つ記録になると思われる。また，「行き」「帰り」と分かれており，分離・再開場面が丁寧に記述されている。</p> <p>乳児院にとって，親子の面会を大切に取り扱い，きちんと記録として残しておくことが児童相談所担当福祉司の家族再統合のための具体的な判断材料となる。</p> | |

| 面会チェック (外出、外食) | | 面会日時 平成〇年△月△日 時間 10時～13時半まで | |
|--|---|---|---|
| 氏名 A子ちゃん(精神発達遅滞あり) 年齢 4歳 ヶ月 | | 面会者(両親、兄、祖母) 記録者 | |
| 観察ポイント | (行き) | 観察記録 | (帰り) |
| ・面会時(泣く、喜ぶ) 1. 素直に親を求める 2. 照れて親を焦らす 3. 時間が経つと親と一緒に遊ぶ | 父母、兄の待つ玄関へ本児を連れてくると、泣いて抱かされていた養育者に更に強くしがみつくと。 | 母と祖母と3人で手をつなぎ玄関へ入ってくる。養育者に手に持っている玩具を見せて笑顔を見せる。 | |
| ・親のかかわり方(スキンシップ) 1. 親にあやされたり抱っこされると笑う 2. 一緒に遊ぶと喜ぶ 3. 子供の好みや発達段階に合っている 4. 子供の反応を確かめて関わっているか、または一方的か | 母は声掛けをするが、しゃがんだり近づこうという姿勢はなかった。 | | |
| ・アタッチメント行動 1. 近づいてきた子どもを抱いたりあやしたりするか 2. 家族が動くとき子どもは後追いか 3. 家族を拠点とした「探索行動」が見られるか | 泣いている本児の前に祖母がしゃがみ込み「おいで」と手を出すと本児も両手を出して抱かれていた。 | | |
| ・基本的な育児技術 1. 授乳、おむつ交換、沐浴、食事等どのように行うか | | | ※外出先より電話が入る。初めての回転ずしで、食べられるか分からなかったが来たと言った。母が思っていたより食べているが、茶わん蒸しは食べられるのか確認される。生魚は食べたことがないことを伝える。帰園後茶わん蒸し、いなり、かつぱ巻き、玉子、プリンを食べたと話す。 |
| ・子どもへの関心度 1. 養育者に子どもの様子を聞く 2. 子育てに関してわからないことを聞く 3. 発達、興味に合った遊びがみられる | | | |
| ・思い通りにならないときの対応 1. 子供が養育者の後を追いか、家族へ近づかないときの反応 2. 泣いたり、かんしゃくを起こしたときの対応 3. 場面を見て行動を起こす | 泣いているが「どれ履いていく」「サンダルはくよ」と養育者が声を掛けると、本児は「はい」と言いながらサンダルを足を入れようと自ら行動する。父母、祖母は静かに見守る。 | | |
| ・複数の家族メンバーが来ている場合 1. だれが中心になって子どもとかかわっているか 2. かかわり方の違い 3. 子どもは誰にもっとも近づか | 以前は先頭に父がいて後ろに母がいたが、今日は母から入ってくる。話も母が中心にしている。本児は入所前に面倒を見てくれた祖母に抵抗ない様子 | | |
| ・別れの場面 1. 親が帰るときの子どもの反応 2. 親の反応や言葉かけ | 外出に向かう為自動車に乗ってからも泣いていたが、外で養育者が手を振ると本児も手を振っていた。 | 笑顔で「バイバイ」と手を振る。父母、祖母はタッチをして別れてから、何度も振り返りながら手を振っている。本児はすぐに部屋に入らず玄関から父母らの姿を見て本児も手を振って応じる。 | |
| ・面会制限が必要 ・面会の継続 ・外出、外泊が可能 | その他 | ・外食時には眠くなるので11時半ごろには食事をしてほしいことを伝える。 ・帰園後37.0℃熱なし、布団に入ると早々に入眠する。 | |

3) 英語版シート

| | |
|---------|-------------------|
| フォーマット名 | 外泊時の家族記入シート (英語版) |
| 乳児院名 | きらり |

ポイント：形式

英語版があるのは珍しい。外国籍（英語圏）の措置入所や一時保護受け入れ児童が一定量毎年あるため、保護者にとっては親切なものである。保護者とのコミュニケーションに役立つものになるので、その後の家庭支援を展開しやすくなるのではないか。

今後は、食事関係等他の書類も英語版や、英語に限らず多言語版の作成が課題になってくるだろう。



date / /

★ Did your baby eat well?

(breakfast yes no
lunch yes no
dinner yes no)

★ Did your baby take nap? (yes time : ~ :)
(no)

★ Did your baby sleep well at night? (yes no)
(time : ~ :)

Did your baby cry in the night? (yes no)

★ Did your baby take a bath? (yes no)

★ Did your baby poop? (yes no)
⇒ How were they? (soft · normal · hard)
⇒ How often? (times)

★ Did your baby have a runny nose or a cough?
(runny nose → yes no) (cough → yes no)

★ Did your baby have a fever? (yes °C no)
⇒ If your baby doesn't look well, take his temperature.

★ How was your baby's day? If your baby had any trouble or notice, please write anythings down.

.....
.....
.....
.....
.....





date / /

★ Did your baby eat well?

(breakfast yes no
lunch yes no
dinner yes no)

★ Did your baby take nap? (yes time : ~ :)
(no)

★ Did your baby sleep well at night? (yes no)
(time : ~ :)

Did your baby cry in the night? (yes no)

★ Did your baby take a bath? (yes no)

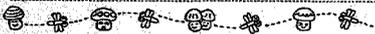
★ Did your baby poop? (yes no)
⇒ How were they? (soft · normal · hard)
⇒ How often? (times)

★ Did your baby have a runny nose or a cough?
(runny nose → yes no) (cough → yes no)

★ Did your baby have a fever? (yes °C no)
⇒ If your baby doesn't look well, take his temperature.

★ How was your baby's day? If your baby had any trouble or notice, please write anythings down.

.....
.....
.....
.....
.....



date / /

| time | contents |
|-------|----------|
| 6:00 | |
| 8:00 | |
| 10:00 | |
| 12:00 | |
| 14:00 | |
| 16:00 | |
| 18:00 | |
| 20:00 | |
| 22:00 | |
| 0:00 | |
| 2:00 | |
| 4:00 | |

please write down...

- ⓄTime & quantity of the milk
- ⓄTime of wake up
- ⓄTime of nap
- ⓄTime got in bed
- ⓄTime of meal and contents
- ⓄTime of poop
- ⓄTime of walk etc.

about the Health

★ Any cough or runny nose?
yes(runny nose, cough) / no

★ Any fever?
yes(°C) / no

★ others

If you have any trouble or notice, please write it down.

.....

.....

.....

medicine

date / /

| time | contents |
|-------|----------|
| 6:00 | |
| 8:00 | |
| 10:00 | |
| 12:00 | |
| 14:00 | |
| 16:00 | |
| 18:00 | |
| 20:00 | |
| 22:00 | |
| 0:00 | |
| 2:00 | |
| 4:00 | |

please write down...

- ⓄTime & quantity of the milk
- ⓄTime of wake up
- ⓄTime of nap
- ⓄTime got in bed
- ⓄTime of meal and contents
- ⓄTime of poop
- ⓄTime of walk etc.

about the Health

★ Any cough or runny nose?
yes(runny nose, cough) / no

★ Any fever?
yes(°C) / no

★ others

If you have any trouble or notice, please write it down.

.....

.....

.....

medicine

2-5. 児童相談所との協働

| | |
|--|----------|
| フォーマット名 | 措置児童 調査票 |
| 乳児院名 | ひよこハウス |
| <p>ポイント：形式，内容</p> <p>児童相談所に書面で依頼しており，乳児院と児童相談所の両者が目に見える形で共有できる。施設側に意見として表明できることはとても良いことだと感じる。</p> <p>児童相談所と施設が措置解除に向けた方向性をきちんと確認しあえる事は，施設としての関わりの方角性を明確にしやすく，自立支援計画書にも反映しやすい。また，児童相談所の児童福祉司の異動等により担当者が変更した場合においても，方向性を確認するうえでは有効である。</p> | |

措置児童 調査票

記入年月日 年 月 日

| | | | | |
|--|----|---|-------|--|
| 氏名 | | 男 | 生年月日 | |
| | | 女 | 入所年月日 | |
| ひよこハウス | 所属 | 棟 | 担当児相 | 所轄 |
| | 担当 | | 担当CW | 児相 <small>(担当福祉司の御名前をご記入下さい。)</small> |
| <small>中期的な見直し・目標</small> 措置解除方法：保護者又は親類引取(宅)・里親委託又は養 <small>(現在CWとして目指しているものを〇で囲んでください。)</small> 措置解除時期：() <small>(現在CWとして目指している、考えている時期をご記入ください。)</small> ころ 措置解除の条件 (措置解除になるには、何が最低条件として家庭(もしくは子ども)の何が変わらなければいけないか、ご記入下さい。) 当面の課題・問題点 ※子どもについて (児相として、対象児について現在課題(問題点)と考えていること。また、その解消方法として、児相として取り組みたいと思っていること、もしくは、ひよこハウスに要請したいと思っていること。) ※家庭(保護者)について (児相として、家庭(保護者)について現在課題(問題点)と考えていること。また、その解消方法として、児相として取り組みたいと思っていること、もしくは、ひよこハウスに要請したいと思っていること。) ひよこハウス担当からの質問(お聞きたいこと)など (ひよこハウス担当質問に対する児相CWとしての見解) (上記の質問などに対し、担当CWのご見解をご記入下さい。) ご協力ありがとうございました。 | | | | |

措置児童 調査票

記入年月日

| | | | | |
|---|----|------|-------|--|
| 氏名 | | 男 | 生年月日 | |
| | | 女 | 入所年月日 | |
| | 担当 | 担当児相 | 所轄 | |
| | | 担当CW | | |
| <small>中期的な見直し・目標</small> 父母交流の継続 措置解除方法：保護者又は親類引取(宅)・里親委託又は養子縁組・他の児童福祉施設 措置解除時期：()ころ 措置解除の条件 ・本児が自らSOSを出せようとする。 ・子ども園の入園と母が毎日送迎できる精神状態が保たれている。 当面の課題・問題点 ※子どもについて ・月齢のわりに発達がスローペース ※家庭(保護者)について ・母の病院発症の継続。自殺願望希死念慮が強い状態に陥りかけている。 ・父の母の病気にまだ理解が浅く、父の精神的負担は、母が振り回されてはいる。 ・多額の借金 担当からの質問(お聞きたいこと)など ・父母との関係作りのため、定期的な面会を予定しています。 担当質問に対する児相CWとしての見解 ・定期面会を継続し、本児、母に無理のないよう交流をサポートしていきたい。父母は母に合わせた関わりをすることができないため、面会交流の指導、見守りを願っています。 ご協力ありがとうございました。 | | | | |

2-6. 退所後

アフターケア

| | |
|--|----------|
| フォーマット名 | 移行後交流記録 |
| 乳児院名 | 聖園ベビーホーム |
| <p>ポイント：形式、内容</p> <p>乳児院にとってアフターケアはとても大切なものであるが、具体的なアフターケア用の書式は参考になる。移行の翌日、1週間後、1か月後など、子どもや状況によって期間や頻度は異なるようだが、移行ができるだけつながりのあるものになるように行われている。移行後の交流場面を、最初～中～再分離と経過にわけて子どもの様子をとらえていて、丁寧である。こうした書類に定期的に記入することにより、丁寧なアフターケアを実施していることがうかがえる。所感振り返ることにつながり、見立ての質的向上や心の整理にもなる。</p> | |

| 移行後交流記録 | | 氏名 | マルちゃん | 日時 |
|---------|---|----|-------|----|
| 移行当日 | | | | |
| 最初の様子 | 移行日のため、園から児相の車で児童養護施設までCWと移動した。緊張のため途中で寝てしまう。15分ほど寝たところで到着する。そのまま会議室で書類確認をしている間は担当にしがみついたまま怯えている。しばらくすると泣き止み担当にしがみついたままジュースを飲んでいた。 | | | |
| 中ころ | お部屋に抱っこしたまま移動するが、いつもと違う雰囲気「あっち、あっち」と帰りが泣いていた。ベッドを確認して大好きなぬいぐるみを自分で置き、「ここでねるんだよ」と言う泣き止みやすんでいた。 | | | |
| 帰るとき | 「明日来るからね。今日はバイバイだよ」と言うと、大泣きするが担当の職員さんに託すと「あっちあっち」と泣き叫ぶ。 | | | |
| 所感 | なんとなく移行はわかっていたように思うが、実際には耐えがたい感じでした。本当の意味での移行は、理解していなかったのだと思います。 | | | |
| 備考 | | | | |
| 移行翌日 | | | | |
| 最初の様子 | 玄関に入ると、お部屋の職員が本児を抱っこして連れてきてくれる。泣かずに抱かれていたが、担当の顔を見ると泣き出す。抱っこするとすぐ泣き止む。「さびしかった」と聞くとうなずいていた。 | | | |
| 中ころ | お部屋に移動しておやつを食べながら、担当の職員さんとお話をする。しばらくは膝から離れなかったが、おやつを食べ終わると膝から離れ、お部屋の中を笑いながら歩き回る。こんな笑顔は昨日から一度も見せなかったとのこと。いつも本児のように、よくお話をし、歌も歌い、よい笑顔を見せていた。 | | | |
| 帰るとき | 1時間面会をさせてもらい「そろそろ帰るね、また来るからね」という泣き出す。今日は玄関まで抱っこしていき、担当の職員に託す。大泣きはしていたが暴れてはなかった。 | | | |
| 所感 | 担当と別れるのは辛そうでしたが、自分はここにいるんだとわかったように思えた。担当の職員さんも昨夜一緒に添い寝してくれたり、本児だけ別に食べさせてくれたり、お風呂もいやがったのでシャワーだけにしてくれたりとかかなり配慮してくださっていた。もっと泣きながら抱きついて帰りたいのかと思ったが、いろいろな配慮のおかげと、慣らしを丁寧に行ったおかげで、移行先も本児にとってよい場所になっているような気がした。 | | | |
| 移行後1週間後 | | | | |
| 最初の様子 | 玄関に担当の職員と歩いてきてくれ、笑顔で抱きついてきてくれる。抱っこすると「Aちゃん（BH担当職員）」と言ってくれる。畳の部屋で遊ぶと言いつ、約束していたラムネを渡すと喜び、一緒にジュースを飲みながらラムネを食べる。元気だった？と聞くと、うなずいた。かわいいティッシュが落ちていたので、誰の？と聞くと「△ちゃん」と、新しいお友達の名前を教えてくれる。 | | | |
| 中ころ | 二人で遊んでいるとべらべら話し出す。「Aちゃん担当」と言ったり、「□ちゃんが、かけてきて」と、BHのお友達の名前を入れてBHで歌っていた歌を歌い出したりする。ただ、おもちゃを踏んで歩いたり、飲み終わったジュースのバックを投げたり、BHで見せなかった姿も見せる。担当の職員さん以外の職員が来ると、Aに抱き着いてきたりした。 | | | |

| | | | | |
|---------|---|--|--|--|
| 帰るとき | 帰る少し前に担当の職員さんが1週間の様子をお話しに来てくれると職員さんに抱き着いて甘えていた。担当の職員さんも自然に抱っこしていた。帰るね、と言うと少しぐずりだし、玄関まで行く？と職員さんが言うとうなずき、サンダルを履いて自分と手をつなぎ玄関まで行く。途中で少し泣きそうになったので抱っこして「また来るね」と言って職員さんに託すと、自分から職員さんに抱っこされタッチする。我慢していたのか泣き出すが、激しくはなかった。 | | | |
| 所感 | かなり新しい生活にも慣れてきたように思えた。職員さんの話によると、場面のかわるときに「こわい」と言っている。ごはんはよく食べられている。職員はみんな好きで、いつも誰かに抱かれているとのこと。昨日は家族と楽しい面会ができたとのこと。 | | | |
| 移行後2週間後 | | | | |
| 最初の様子 | 玄関で待っていると、担当職員さんと歩いてきて目が合うと走ってきて抱きつく。とてもうれしそうなお顔をしている。面会室に入り、担当職員さんと話をしていて、持ってきたおやつを食べたがり、「開けて、おやつ食べる」と言い続ける。担当職員さんがいなくなっても「あけてあけて」と言い、全部食べ終わるまでAの話もなかなか聞いていないようだった。 | | | |
| 中ころ | おやつを食べ終わるとやっとなら落ちて膝に座ったり、お話をしてくれるようになった。絵本と一緒に見たり、大好きな歌も歌ってくれた。「マルちゃん、Aちゃん大好き」と言ったり、「マルちゃん、ママ大好き」「マルちゃん、Bちゃん（担当職員さん）大好き」と言っていた。 | | | |
| 帰るとき | 帰る時間になり担当職員さんが迎えに来ると、職員さんの手を自分からつなぎに行き、玄関まで送ってくれる。また来るねという、黙ってうなずき少し寝たような顔はしたが、泣かずにバイバイした。 | | | |
| 所感 | 職員さんも言っていたがストレスで食に走っている気がした。普段も「おやつおやつ」と言って棚を開けたりすること。ご飯を沢山食べるよう少し太ったように思えた。職員さんたちにもかなり慣れ、とてもかわいがられた。しかしおやつの食べ方を見ると、がつがつと食べ落ち着きがなく、BHにいたときはかなり変わった気がした。 | | | |
| 移行1ヶ月後 | | | | |
| 最初の様子 | いつものように玄関にきてくれるが、今までとは比べものにならないほど満面の笑みで、走ってきてくれる。「Aちゃん～」と言って抱きついてくる。朝から「Aちゃん」と言い待っていてくれたとのこと。 | | | |
| 中ころ | 今日は幼児の4人も一緒に遊ばせてもらう。お部屋でおやつを食べながら皆で本児のアルバムを見る。他児が触ると「マルちゃんの～」と言う。そのあとお外で遊ぶ。大好きなお友達ができいて、砂場で遊んだ。鼻水が出ると自分で室内に入り鼻をかんだりとすっかり生活に慣れてきた。また強引にブランコを押す子に「やめて～」と言ったり、他児にやり返す姿も見られた。 | | | |
| 帰るとき | そろそろ帰るね、というニヤニヤしながら「かえらないで」と言う。玄関まで抱っこして「また来るね」といううなずき、職員さんに自分から行き、笑顔でバイバイをして別れる。 | | | |
| 所感 | かなり慣れているように思えた。食に走っているのも落ち着いてきたとのこと。職員さんたちが自分の名前をよく出してきているようで、他の子どもたちも「Aちゃん」と呼んで寄ってきてくれる。 | | | |

(文責 横川 哲・都留 和光・南山今日子)

第Ⅱ部 アセスメント票の開発にむけて

第1節 アセスメント票の開発の目的

1-1. 乳児院におけるアセスメントの重要性

被虐待児や病虚弱児・障害児の入所の増加、親の精神疾患による入所の増加等、社会的養護の対象となる子どものおかれている状況は深刻化しており、乳児院におけるアセスメント機能の重要性が増している。『乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書』（全国乳児福祉協議会、2012）において、乳児院の必須の義務機能として「一時保護所機能」、「専門的養育機能」、「親子関係育成機能」、「再出発支援機能」、「アフターケア機能」の5つの法的（必須）義務機能と、選択的義務として「地域子育て支援機能」が挙げられた。これらの乳児院の機能は、乳児院で子どもと出会い、養育する間だけでなく、乳児院を退所した後のアフターケアも含む長期の過程を想定しており、その支援の展開過程の基盤としてアセスメントがあることが指摘されている。

また、近年の『新しい社会的養育ビジョン』（新たな社会的養育の在り方に関する検討会、2017）は、乳児院の5年内の75%の里親達成の目標を掲げ、それに伴い、乳児院は今後さらに専門性を高め、多機能化・機能転換を行うとしている。そこで挙げられた乳児院の担うべき重要な機能の一部として、一時保護の際の親子関係に関するアセスメントや障害等特別なケアを必要とする子どもに対するアセスメントがあるとされており、乳児院のアセスメント機能の重要性はより一層強調されているといえよう。

アセスメントとは、個々の固有の課題やニーズを抱える一人一人の乳児を個別的に理解し、その個別的に応じた適切な手立てを見いだしていくことであり、適切なアセスメントを欠いた支援はパターン化された表面的なものであったり、根拠のない独善的なものであったりになってしまう可能性をはらむ（全国乳児福祉協議会、2012、2013）。被虐待経験がある子どもや、病虚弱児や障害を持つ子どもは増加しており、そのような個別的な課題を持ち、質の高い養育が必要な子どもに対しては、個々のケースを理解し見立てを行うアセスメントが殊に必要不可欠であり、重要である（全国乳児福祉協議会、2012、2013）。この際、アセスメントは身体的アセスメント、心理的アセスメント、関係性のアセスメントと複数の観点から行われる包括的アセスメントが求められる。

支援の基盤としてアセスメントが重要となる一方で、展開過程を通しての通時的なアセスメントの実施は乳児院における養育の効果を正当に評価すると同時に乳児院の課題を明確化する手段としての価値もあると考える。現状の乳児院の養育の評価は、子どもの退所時の状態にのみ注目されて行われている。しかし、多様な背景により個々の発達課題や特徴を持つ子どもを単純に標準的な発達水準と一時点で比較して、子どもの発達の伸びや乳児院の養育の成果を正当に評価することは困難であり、乳児院における養育実践をある種不当に低く評価することに繋がりがねない。そのため、月齢に関係なく、入所時から退所時にかけてどのような子どもの発達状態の伸びがあったか評価することが正当に子どもの成長と養育の成果を評価することにつながるだろう。また、適切で通時的なアセスメント

の実施は、多様な特徴を持つ子どもの発達への伸びと困難の特徴を同時に明らかにするものである。よって、乳児院における養育実践と乳児院における子どもの育ちを合わせて検討することで、どのような乳児院の養育実践の側面がいかなる子どもの心身発達に正負の影響を及ぼしうるか、実態とその背景にあるプロセスを精緻に明らかにする一助となりうる。このように、適切かつ通時的なアセスメントは個々の課題を持つ一人一人の子どもに対して支援を行っていく基盤となる一方で、乳児院全体の養育実践が子どもの発達にどのような正負の影響をもたらすか明らかにし、その養育実践の可能性と課題を審らかにするものと考えられる。

1-2. 『乳児院におけるアセスメントガイド』と実態調査を踏まえて

こうした乳児院におけるアセスメントの重要性が強調されている中で、乳児院職員のアセスメント力向上を企図して『乳児院におけるアセスメントガイド』（全国乳児福祉協議会、2013）が既に作成されている。以下、その概要を述べる。『乳児院におけるアセスメントガイド』や増沢（2016）によれば、アセスメントの過程として3段階ある。第1段階として行動観察や聞き取り等による子どもの身体的、心理的、関係性に関する状態像に関する情報を総合的に把握する段階、第2段階としてそのような状態像の背後にあるより本質的な問題を理解する段階、第3段階として支援方針を立ててその経過を把握する段階に分けられる。これらの過程は循環的に行われ、かつチームで行っていくことが望ましいとされる。子どもの状態像を把握するための情報としては、①身体的発育の程度や身体的障害、疾病の有無などの身体的側面に関する情報、②情緒発達、言語発達、認知発達、生活リズム、恐怖や不安等子どもの心理的側面に関する情報、③保護者との関係性、担当養育者との関係、子ども同士の関係、その他の大人との関係など、関係性の側面に関する情報が挙げられる。

『乳児院におけるアセスメントガイド』はアセスメントの視点を明確にしておき、子どもの状態像を包括的に把握し、その背後にある要因を理解するために情報を整理するという点において優れていると考えられる。また、アセスメントガイドに沿ったアセスメントの実施は、各乳児院の業務として要請されるものではないとはいえ、業務にも使用できるような仕様のワークシートも合わせて作成されている。アセスメントガイドおよびワークシートは日々の綿密な行動観察や聞き取りを踏まえたエピソードの記述や子どもの状態の記述を基本としているという大きな特徴がある。こうしたエピソードの記述や子どもの状態の綿密な記述は子どもの状態像を把握するための第一資料となり、重要なものであると考えられる。また、書くという過程によって子どもの状態を今一度理解し、情報を整理するという点にも繋がると思われる。しかし、行動や身体に明確に表れる身体的側面はともかく、子どもの情緒や恐怖・不安等の子どもの心理的側面の状態像や、担当養育者や他の職員、子ども同士の関係性の発達には必ずしも直接的に行動からそのままに捉えられるものではなく、見る者によっては視点が揺らいでしまう可能性は十分にある。そのために、アセスメントの信頼性が損なわれ、実施が困難な場合もあると考えられる。

また、子どもの心理的状态という言葉には、様々な概念やそれにまつわる複数の行動を内包しているため、それらの概念や行動を整理した形でアセスメントしていくことが必要であると考えられる。

『乳児院におけるアセスメントガイド』においては、心理的側面として情緒、認知・言語発達、自己意識、恐怖や不安、生活習慣が挙げられているが、情緒の中には、安心感や信頼、共感性、泣くこと、欲求や情動のコントロールなど実に多様なものが含まれている。さらに、これらの安心感や信頼などは子どもの発達や状態を表す抽象的な概念であり、心理学研究においてはこのような抽象的な概念を目に見える行動によって操作的に定義することによって測定することが試みられてきた。このように一つの項目の中に多様な概念やそれにまつわる行動群が複雑に存在していることや、その判断基準が明確になっていないことによって、アセスメントの信頼性が損なわれやすく、子どもの心理社会的発達を把握していくことを難しくしていると考えられている。現状のアセスメントガイドにおいては、「情緒」「恐怖・不安」「関係性」の中に多様な概念と行動群が含まれているが、それらすべてを自由記述によって把握していくことには限界があるだろう。また、明確な判断基準が示されないことは、子どもの心理社会的発達をある一定の視点をもって見ていくことを難しくしているのではないかと考えられる。

実際、第Ⅰ部の実態調査を見ても、心理的側面のうち、行動で見やすい「生活習慣（食事・睡眠・着脱衣等）」を除いて、安心感や信頼、共感性、泣くこと、欲求や情動のコントロール等を含む情緒発達や恐怖・不安、自己意識・自己概念については入所前後から入所中、退所時を通して項目を設定して把握されていることは少ない。入所中においては、「情緒」という項目を設けている施設は64%と全体の半数以上ではあるが、「情緒」と非常に広い発達を意味する項目名に対して、明確にどのような発達を意味するかという下位の項目名を設定して記述欄を設けている施設は少なかった。関係性に関する情報も同様に把握しているところは通時的に少なかった。

アセスメントにおける自由記述の重要性は強調しつつも、自由記述のみによる心理社会的子どもの状態把握は判断の視点が揺らぎやすい点、心理社会的発達といったときに実に多様な子どもの発達や行動が含まれている点、実態調査においても「情緒」「不安・恐怖」「自己意識」「関係性」などの子どもの発達や状態像の項目を設けて情報を把握している施設が少ない現状があるという点を踏まえて、『乳児院におけるアセスメントガイド』の心理的側面及び関係性の側面について、行動ベースでの明確な判断基準をもった発達チェックリストを援用していくことが望ましいと考えられる。さらに、乳児院の養育実践を正当に評価する方法としても通時的なアセスメントは重要であるという観点にたつならば、判断をする人や判断をする時によってその判断が揺れず、信頼性が高い定量化可能な行動チェックリストによって子どもの発達や状態を捉えていくことが必要不可欠であろう。

子どもの心理社会的発達を把握するために、既存の発達検査や各施設独自の発達チェックリストを設けて把握していこうとしている施設は少なからずある。既存の発達検査については新版K式発達検査2001（生澤他，2008，以下「新版K式」とする）、遠城寺式乳幼児分析的発達検査（遠城寺他，2009，以下「遠城寺式」とする）が多く用いられている。新版K式については、標準化された発達検査であり、訓練を受けた心理士が実施する点において信頼性が高い。また、認知・言語的発達に関する項目が充実していると考えられる。一方で、新版K式は社会情緒的発達に関しては、項目が限られているという限界がある。それに対して、遠城寺式は標準化された検査であり、社会情緒的発達に関

する項目が厚く用意されている。また、判断基準もまた記載されている。この他、独自の発達チェックリストを用い「社会」「情緒」「対人」といった概念名を挙げ、子どもの社会情緒的発達を捉えていくとする乳児院もある。遠城寺式や各施設が用いている独自の発達チェックリストは子どもの社会情緒的な発達や状態を捉えるのに有用であると考えられるが、いずれにせよ「社会」「対人」「情緒」という言葉の中には、人への指向性、二項関係の発達（愛着形成）、社会性の発達、自我発達、情動理解発達、情動発達、情動調整発達、社会的認知発達など実に多様なものが含まれており、これらの発達検査および発達チェックリストの結果が具体的にどのような子どもの発達の伸びを示しているのか明確ではない。本来ならば、これらの発達検査や発達チェックリストで捉えられる社会情緒的な子どもの発達や状態像はそのままアセスメントガイドの情緒発達、自己意識、関係性の側面と一致するはずであるが、これらの発達検査における心理社会的発達に関する項目群は、子どもの具体的にどのような心理社会的発達を測定したものか整理されていないがために、そのまま自由記述式のアセスメントの補助として用いることには困難がある。

以上から、乳児院におけるアセスメントの重要性は適切な支援や乳児院の養育実践の評価のために叫ばれ、アセスメントガイドなどによって包括的アセスメントを行う試みがなされているが、殊に心理社会的発達や子どもの心理的状态を把握するアセスメントについていえば、把握しようとする子どもの発達や状態が抽象的な概念であるがために、自由記述によるアセスメントのみでは、一定の信頼性を備えてのアセスメントの実施は困難であると考えられる。また、現状として著しくその項目の設定がなされることが少ないという現状がある。よって、行動水準で子どもの発達や状態を捉えていく発達チェックリスト等が有効になると考えられるが、既存の発達検査や各施設独自の発達チェックリストもまた「社会」「対人」「情緒」という概念名でくくられ、その内実子どものどのような心理社会的発達や状態を測定しているか定かではない。

1-3. アセスメント票開発の目的

そこで本研究においては、既存の発達検査や各施設の独自の発達チェックリストの中の心理社会的発達を捉える項目群を整理したうえで、子どもの心理社会的発達に関するアセスメント票を開発することを目的とする。その際、判断基準があいまいにならないように具体的な行動水準の判断基準を設けることとする。また、乳児院での養育実践の成果としては子どもと職員や保護者との関係性の形成、トラウマ反応の減少や不適切行動の減少などがあげられるが、これらを捉える項目群は既存の発達検査の中に設定されていない。よって、本アセスメント票では既存の心理尺度や記述を使用することで、子どものアタッチメント形成、トラウマ症状、不適応行動などを捉える項目群も合わせて開発することを目的とする。

ただし、本研究において作成を企図する行動チェックリスト様式のアセスメント票では、アセスメントを実施するために子ども一人一人のエピソードや行動を1つ1つの分断された行動項目に単純化してしまうという特徴を有する。そのため、子どもの個別の特徴を統合的に捉えたり、その背景要因や具体的なエピソードを捉えたりできないという限界を有している。あくまでも、本研究が作成を企

図するアセスメント票は心理社会的な子どもの状態像に関する情報収集の1つの方法という域を越えず、これまで乳児院で行われてきた個別の子どもに関する綿密な観察と分厚い記録の重要性は変わらない。また、子どもの状態像の背後にある状況や様々な情報を統合して子どもを理解して見立てをたてていくという作業をチームで行っていく過程が必要になることも変わらない。以上を踏まえ、本アセスメント票の位置づけは、心理社会的発達に関する情報収集における補助的手段というものである。しかし、判断基準を明確にし、あらゆる人が同じ形で実施できるようにすることで、全国共通で子どもの心理社会的状態の情報収集方法として用いることが可能であり、乳児院の養育の成果を定量化して捉えることにも寄与すると考えられる。

第2節 アセスメント票の概要

本アセスメント票においては、『乳児院におけるアセスメントガイド』（全国乳児福祉協議会、2013）、既存の発達検査、心理尺度、参考資料等をもとに、子どもの心理社会的側面をとらえるために大きく3領域を設定することとした。1つ目の「心理社会的発達」領域では、子どもの二者関係の発達、社会性の発達、社会的認知、情動発達、自我発達の5領域を設けた。2つ目の領域は「アタッチメント」であり、アタッチメント行動の個人差、アタッチメント障害、無秩序・無方向型アタッチメントを捉えるものとした。3つ目の領域は「子どものSOSサイン」であり、トラウマ反応や気になる行動を把握する項目からなっている。アセスメント票とアセスメントガイドの関連については、表1に示す。

表1. アセスメント票とアセスメントガイドの関連

| アセスメント票 | 内容 | アセスメントガイド項目 |
|-------------------|---|------------------|
| 心理社会的発達 | | |
| ①二者関係の発達 | 人一般への指向性、特定の他者の選好、特定の他者のアタッチメント対象としての利用 | 情緒 担当保育士との関係性 |
| ②社会性の発達 | 特定の他者以外の大人や子どもへの指向性やかかわり、対人間葛藤や葛藤中での解決法の発達 | 情緒 子どもとの関係性 |
| ③社会的認知 | 他者の心の理解の発達、共同注意行動の発達や象徴遊びの発達 | |
| ④情動発達 | 快不快から嫉妬や誇りなどの複雑な情動の発達、情動理解、情動調整発達 | 情緒 |
| ⑤自我発達 | 身体的な自分の認識、鏡に映った自分の理解、他者から注意を向けられる自分の理解、自己主張とその調整の発達 | 情緒 自己意識 |
| アタッチメント | | |
| ①アタッチメント行動チェックリスト | アタッチメントの安定性を測るための行動リスト。子どもが不安・恐怖に陥った際のアタッチメント行動や、探索行動 | 担当養育者・保護者との関係性 |

| | | |
|--------------------|--|----------------|
| ②アタッチメント障害アセスメント | DSM-Vの診断基準より項目化。脱抑制型対人交流障害及び反応性アタッチメント障害 | 担当養育者・保護者との関係性 |
| ③無秩序型アタッチメントアセスメント | 組織化されていないアタッチメントタイプ | 担当養育者・保護者との関係性 |
| 子どものSOSサイン | | |
| ①トラウマ反応 | 多様な場面で現れる子どものトラウマ反応を示唆する行動（特定の場面で強く泣く等） | 身体的・心理的・関係性全般 |
| ②SOSサイン | 身体，心理，関係性に表れる子どもの気がかりな行動 | 身体的・心理的・関係性全般 |

2-1. 心理社会的発達

心理社会的発達領域では、既存の発達検査および各施設が独自で用いている発達チェックリストを整理する形で子どもの一般的な心理社会的発達を捉える。「二者関係の発達」においては、生後間もなくからみられる人一般に対する指向性，その後の他者の区別と選好，特定の他者をアタッチメント対象として利用することの芽生えを把握することを試みる。次に，二者関係を基盤として広がる子どもの他者との関係性の発達やその中での行動調整などの発達を「社会性の発達」において捉える。また，共同注意の発達や象徴遊び（ごっこ遊びや見立て遊び）など他者の心の理解に関わる発達を「社会的認知発達」として捉えていく。次に「情動発達」として，子どもの情動が快・不快から怒り・不安・喜びへの分化，そしてより複雑で他者から見られる自分を理解したことによって生じる嫉妬や誇り，恥ずかしさなどの様々な情動が生起していく過程を捉えていく。合わせて，子どもが情動を理解したり人の手を借りながら情動を調整したりする発達も捉えていく。最後に，身体的な自分の認識や鏡映自己像の理解，他者からみられる自分の理解，自己主張の発達とその調整の発達を「自我発達」として捉えていく。

2-2. アタッチメント

『乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書』（全国乳児福祉協議会，2012）において，入所中の関係性のアセスメントの重要性が指摘されている。アタッチメントとは子どもが心身の負荷にさらされたときに重要な他者とくっつくことを通してその不安定な状態を回復させるような行動傾向およびそのような関係性のことである（遠藤，2007）。アタッチメントは子どもの心身の負荷があった時に重要な他者の下に逃げ込むことができ，その状態を回復させることができるという意味で重要となるだけでなく（安全な避難所の機能），子どもが何かあった時には重要な他者の下に逃げ込めるという安心感をもって，積極的な外界の探索をすることができる拠点となる（安全基地の機能）という意味においても重要となる。アタッチメントにおいては個人差が存在し，上記の安全な避難所と安全基地の機能の両方が十分に子どもの中で働いていることをアタッチメントの安定性と表現する。本アセスメント票では，アタッチメント行動チェックリスト（Attachment Behavior Checklist: ABCL；青木・南

山・福榮・宮戸，2014) を使用してアタッチメントの安定性を測定する。ABCLは乳児院や児童養護施設の入所児を対象に作成され，観察によるアタッチメントの測定法であるアタッチメントQソート法 (Waters & Dean, 1985) を下に作成された。「こころの理解」「感情調節不全」「安全基地」の3因子からなり，24項目から構成される。また，被虐待児に多く見られる組織化されていないアタッチメントである無秩序・無方向型アタッチメントや脱抑制型対人交流障害および反応性アタッチメント障害のアタッチメント障害を測定する。無秩序・無方向型アタッチメントとは，アタッチメントの近接関係の確立・維持，主観的安全の確保といった目的に沿わない組織化されておらず，明確な方向性をもたないアタッチメントである (遠藤，2007)。具体的には，子どもが不安な状態にさらされた際に，通常はアタッチメント対象に接近することで不安な状態を回復しようとすると考えられるが，無秩序・無方向型アタッチメントの子どもは近接と回避という両立しない行動を示す (遠藤，2007)。これに比してアタッチメント障害は，こうした無秩序・無方向型アタッチメントすら形成されていない状態であり，「アタッチメント未成立障害」である (数井，2007)。具体的な行動としては，誰に対しても友好的にかかわり無差別的にアタッチメントを向ける脱抑制型対人交流障害や，逆に人一般に対して情緒的に引きこもる反応性アタッチメント障害があげられる。アタッチメント障害についてはDSM-Vの診断基準より項目化を行い，無秩序・無方向型アタッチメントについては遠藤 (2007) を参考に項目作成を行う。

2-3. 子どものSOSサインとトラウマ

子どものトラウマ反応の測定にあたっては，不安や不適応行動が項目化されている養育問題のある子どものためのチェックリスト (泉・奥山，2009；Checklist for Maltreated Young Children；CMYC) を用いる。「トラウマ」「愛着」「行動・感覚・調整」の3因子から構成されているが，本アセスメント票ではこのうち「トラウマ」の7項目 (生後6ヶ月～24ヶ月未満，生後24ヶ月～就学前は6項目) を用いることとする。SOSサインの項目化にあたっては，全国乳児福祉協議会より発刊された『中堅職員にむけた研修小冊子』(2016) および『初任職員にむけた研修小冊子』(2016) に記載された子どもの出す心理面での「SOSサイン」を参照して行った。身体的側面，心理的側面，関係性の側面それぞれに関する子どもの心理面でのSOSサインが記載されており，各項目をテーマごとにまとめてある「課題分類」をもとに項目化を行う。基本は，具体例を入れつつ，課題分類のテーマについて「～が心配である」という文面にした。職員との関係は，アタッチメントで測定するためSOSサインには含めなかった。

引用文献

青木豊・南山今日子・福榮太郎・宮戸美樹 (2014) . アタッチメント行動チェックリスト Attachment Behavior Checklist: ABCLの開発に向けての予備的研究－児童養護施設におけるアタッチメントを評価するために－ 小児保健研究, 73, 790-797.

新たな社会的養育の在り方に関する検討会 (編) (2017). 新しい社会的養育ビジョン 厚生労働省

生澤雅夫・岩知道志郎・大神律子・大久保純一郎・大東美智子・郷間英世・山本良平 (2008). 新版K式発達検査研究

- 会（編）. 新版K式発達検査法 2001年版 標準化資料と実施法 ナカニシヤ出版
- 泉真由子・奥山真紀子（2009）. 「養育問題のある子どものためのチェックリスト（Checklist for Maltreated Young Children：CMYC）」の開発 小児の精神と神経, 49, 121-130.
- 遠城寺宗徳・合屋長英・黒川徹・名和顯子・南部由美子・篠原しのぶ・梁井迪子（2009）. 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法 九州大学小児科改訂新装版 慶応義塾大学出版会株式会社
- 遠藤利彦（2007）. アタッチメント理論とその実証研究を俯瞰する 数井みゆき・遠藤利彦（編）アタッチメントと臨床領域 数井みゆき・遠藤利彦編著 ミネルヴァ書房 pp.1-44.
- 数井みゆき（2007）. 子どもの虐待とアタッチメント 数井みゆき・遠藤利彦（編）アタッチメントと臨床領域 数井みゆき・遠藤利彦編著 ミネルヴァ書房 pp.79-101.
- 全国乳児福祉協議会 アセスメントツール作業委員会（編）（2013）. 乳児院におけるアセスメントガイドー社会的養護における人生初期のアセスメントー子どもの養育の質を高めるためにー
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の研修体系具体化にむけた作業委員会（編）（2016）. 初任職員に向けた研修小冊子ー乳児院の養育を担うスタートをきるためにー
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の研修体系具体化にむけた作業委員会（編）（2016）. 中堅職員に向けた研修小冊子ー乳児院の養育を担う主軸となるためにー
- 全国乳児福祉協議会 乳児院の将来ビジョン検討委員会（編）（2012）. 乳児院の将来ビジョン検討委員会報告書
- 増沢高（編）（2016）. 事例で学ぶ社会的養護児童のアセスメントー子どもの視点で考え、適切な支援を見いだすためにー 明石書店
- Waters, E. & Deane, K. E. (1985). Defining and assessing individual differences in attachment relationships: Q-methodology and the organization of behavior in infancy and early childhood. In I. Bretherton & E. Waters (Eds.), *Growing points in attachment theory and research. Monographs of the Society for Research in child Development* (Vol. 50, pp. 41-65). Chicago: University of Chicago Press.

（文責 小山悠里）

総括

アセスメントの視点に関する実態については、全国の乳児院137ヶ所中、116ヶ所より回答を得ることができた（回収率84.7%）。『乳児院におけるアセスメントガイド』（全国乳児福祉協議会, 2013）などを参考に、「子どもの状態像」、「生育歴」、「家族の状況」などについてチェック項目を予め設定し、それぞれの項目に関して、各乳児院の記録用フォーマットやアセスメント・シート等に、該当するものがあるか否かを吟味した。

結果として、入所時、入所中、退所時全時点において、子どもの身体的側面の発達状態や生活習慣に関する情報収集は、ほぼ全乳児院においてかなり詳細に亘って的確になされていたと言える。また、心理的側面の発達に関しても、各種発達検査を直接用いて、あるいはそれらを参考として、かなり入念にそのチェックが行われている乳児院が少なからずあったとすることができる。しかしながら、子どもの社会情緒的側面の発達状態や関係性の性質に関しては、それぞれの乳児院によってばらつきが大きく、総じて、必ずしもそれらが十分に把握されているとは言い難い状況であった。それらの多くは基本的に、一回きりの観察によってその有無が容易に判断できるようなものではなく、複数場面に亘る慎重な行動観察によって初めてその質が判断できるものであるだけに、元来、その評価難度が高いということは理解できるが、子どもの乳幼児期以降の心理的発達の重要な予測因ともなるものであるため、それらに関わる情報収集の充実・徹底は、現今における一つの喫緊の課題と言えるだろう。これらに関しては、具体的に、子どもの日常のどのような行動に着目し、いかなる観点から評価すべきかということも含め、その情報収集のフォーマット化を急ぐ必要があると考えられる。

全体として、相対的に多くの乳児院が、自由記述ということも含めて言えば、一人ひとりの子どもの発達の遍歴に関して、それなりに緻密に見立てを行い、精細な記録を残しているという状況を見て取ることができた。それに関しては相応に高く評価されて然るべきであろう。もっとも、『乳児院におけるアセスメントガイド』の活用が全体の37.1%の乳児院に留まっていることから窺えるように、現状としてのアセスメントは、各乳児院の子ども観や方針等による相当に独自色の強いものであると言わざるを得ない。それが、日本の乳児院が、全体として、入所児に対して、どのような養育・発達支援上の効果をもたらしているかということの科学的な検証を難しくしていることは言うまでもなく、今回の実態調査の結果から、いっそう強く、全国共通に用いられ得る標準的なアセスメント・ツールやそのためのガイドの整備が、急務であることが認識されたとはいえる。

また、いずれの乳児院においても、入所時、入所中、退所時と複数時点に亘って、一人ひとりの子どもに関して、多かれ少なかれ、その行動や様子のチェックが行われてはいるが、そのプロセスにどのような変化（成長・停滞・増悪等）が認められるかに関しては、特に定量的な視点から言えば、それを知ることが容易ではないという実状が窺えた。無論、子どもの発達のすべての側面が定量的に示されるものではないが、少なくとも、それが可能なものに関しては、その発達軌跡を数値として可視化していくような工夫が今後、必要となろう。

以上のような現状認識に基づき、かつ『乳児院におけるアセスメントガイド』などに鑑みながら、

まずは課題となっている子どもの心理社会的側面のアセスメントに関して、種々の心理社会的発達状態、アタッチメント、トラウマ・SOSサインという大きく三側面からなる枠組みを構成し、第一次項目案を設定した。もっとも、今回のアセスメント票は、あくまでも理論駆動的視点から構成した試案であり、現場のニーズに的確に答え得る、あるいは現場での効果的な活用を前提としたものでは必ずしもない。そこで、平成30年度は、その試案に関して、それぞれの乳児院で主にアセスメントに携わる現場職員から広く意見聴取するとともに、それをいくつかの乳児院で試行実施してもらい、そこにおける課題の掘り起こしとそれに基づいた修正作業を重ねる中で、妥当性と信頼性のチェックを厳密に行い、標準アセスメント・ツールを完成させることを企図するものとする。

引用文献

全国乳児福祉協議会 アセスメントツール作業委員会（編）（2013）. 乳児院におけるアセスメントガイドー社会的養護における人生初期のアセスメントーー子どもの養育の質を高めるためにー

（文責 遠藤利彦）

平成29年度研究報告書

乳児院養育の可能性と課題を探る
—現代発達科学的視座からの検証—

平成30年 8月31日 発行

発 行 社会福祉法人 横浜博萌会
子どもの虹情報研修センター
(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

編 集 子どもの虹情報研修センター
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町983番地
TEL. 045-871-8011 FAX. 045-871-8091
mail : info@crc-japan.net
URL : <http://www.crc-japan.net>

編 集 研究代表者 遠藤 利彦
共同研究者 横川 哲
都留 和光
小山 悠里
南山 今日子

協 力 平田ルリ子
全国乳児福祉協議会

印 刷 (株)ガリバー TEL. 045-440-6341(代)